

# 東京デジタルミュージアムバージョン5 操作説明

東京デジタルミュージアムバージョン5を立ち上げると、DM地形図が表示された起動画面が現れます。最初の起動時には区または市町村の全域が表示された起動画面が表示されます。関連する図郭を全て含むように構成されているため、区境界や市町村界よりも広めに表示されます。2回目からは前回終了時の画面が表示されます。

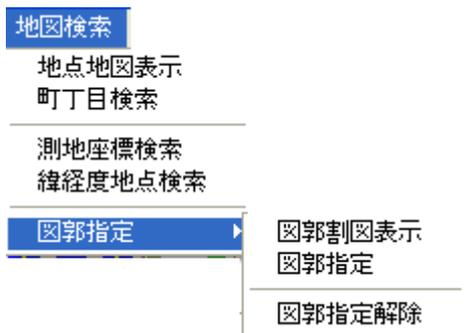
東京デジタルミュージアムバージョン5の画面構成は下図のようです。地図（描画キャンバス）の上下に、ステータスバーが現れます。上のステータスバーの右端には現在表示されている地図の縮尺が示されます。下のステータスバーにはガイダンスメッセージが示されます。



メニューバーまたはツールバーをマウスでクリックして、システムを操作してください。

## 1. 地図検索

メニューバーの[地図検索]で行います。  
地図検索のメニュー構造は以下のようです。



### 1.1 地点地図表示

プルダウンの[地点地図表示]をクリックして下さい。

「地点をマウス左ボタンで指示してください。(右:キャンセル)」

下のステータスバーに、上記のようなメッセージが表示されます。画面の地図上の中心としたい地点を、マウスでクリックして下さい。その地点を中心とした2,500分の1縮尺の地図が表示されます。

### 1.2 町丁目検索

プルダウンの[町丁目検索]をクリックすると、町丁目および字のプルダウンメニューが現れます。

一覧リストから表示したい町丁目または字を選択すると、その町丁目または字を中心とする地図が表示されます。この時、

選択された町丁目の中心は赤の+マークで表示されます。このマークは[検索表示消去]のアイコンをクリックすると消えます。

町丁目の選択を行わない場合は[Cancel]をクリックして下さい。

### 1.3 測地座標検索

プルダウンの[測地座標検索]をクリックすると、測地座標の入力画面となります。

検索を行いたい地点の測地座標を直接入力してください。その地点を中心とした2,500分の1縮尺の地図が表示されます。この時、入力された測地座標の地点は赤の+マークで表示されます。このマークは[検索表示消去]のアイコンをクリックすると消えます。

検索を行わない場合は[Cancel]をクリックして下さい。

この機能は、前に印刷した地図と同じものを印刷する時に便利です。地図の中心座標(アイコンの機能)をメモしておいて、その座標を指定することで同じ地図が簡単に表示できます。

### 1.4 緯経度地点検索

プルダウンの[緯経度地点検索]をクリックすると、緯経度の入力画面となります。

検索を行いたい地点の緯度、経度を直接入力してください。その地点を中心とした2,500分の1縮尺の地図が表示されます。この時、入力された緯度、経度の地点は赤の+マークで表示されます。このマークは[検索表示消去]のアイコンをクリックすると消えます。

検索を行わない場合は[Cancel]をクリックして下さい。

### 1.5 図郭指定

プルダウンの[図郭指定]で、指定した図郭のみを表示することができます。

#### 1.5.1 図郭割り図表示

対象となっている区や市町村の全域が、図郭割り図と共に表示されます。この状態のまま拡大、縮小や移動ができます。

<注意>

地形図が多数の図郭から成る場合、拡大表示すると図郭の名称が明確になります。

#### 1.5.2 図郭指定

表示されている図郭割り図から、表示させたい図郭内の点をマウス左ボタンでクリックして下さい。これ以降は、指定した図郭のみの表示となります。

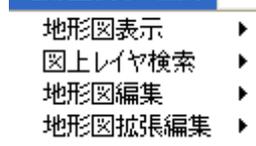
#### 1.5.3 図郭指定解除

このメニューをクリックすると[図郭指定]は解除されます。図郭割り図であれ、地形図の表示であれ、全ての図郭を含む地図が対象となります。

## 2. DM地形図表示・編集

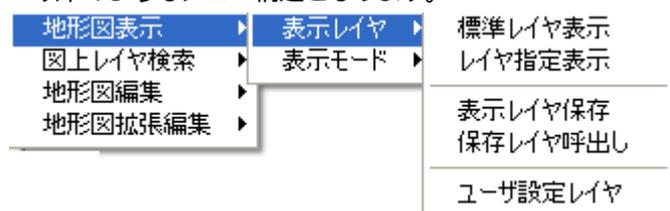
DMの地形図の表示や検索、編集を行うものです。以下のようなメニュー構造となります。

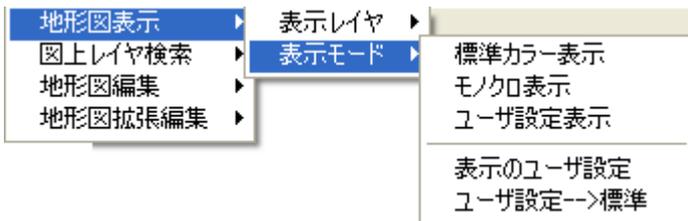
### 地形図表示・編集



### 2.1 DM地形図表示

DMの地形図をレイヤ毎に選択して表示できます。また、表示の色や線号(線の太さ)を変更することもできます。以下のようなメニュー構造となります。





### 2.1.1 表示レイヤ

#### (1) 標準レイヤ表示

デフォルトのレイヤが表示されます。

縮尺に応じて、前もってシステムでレイヤの表示オン/オフを定めています。

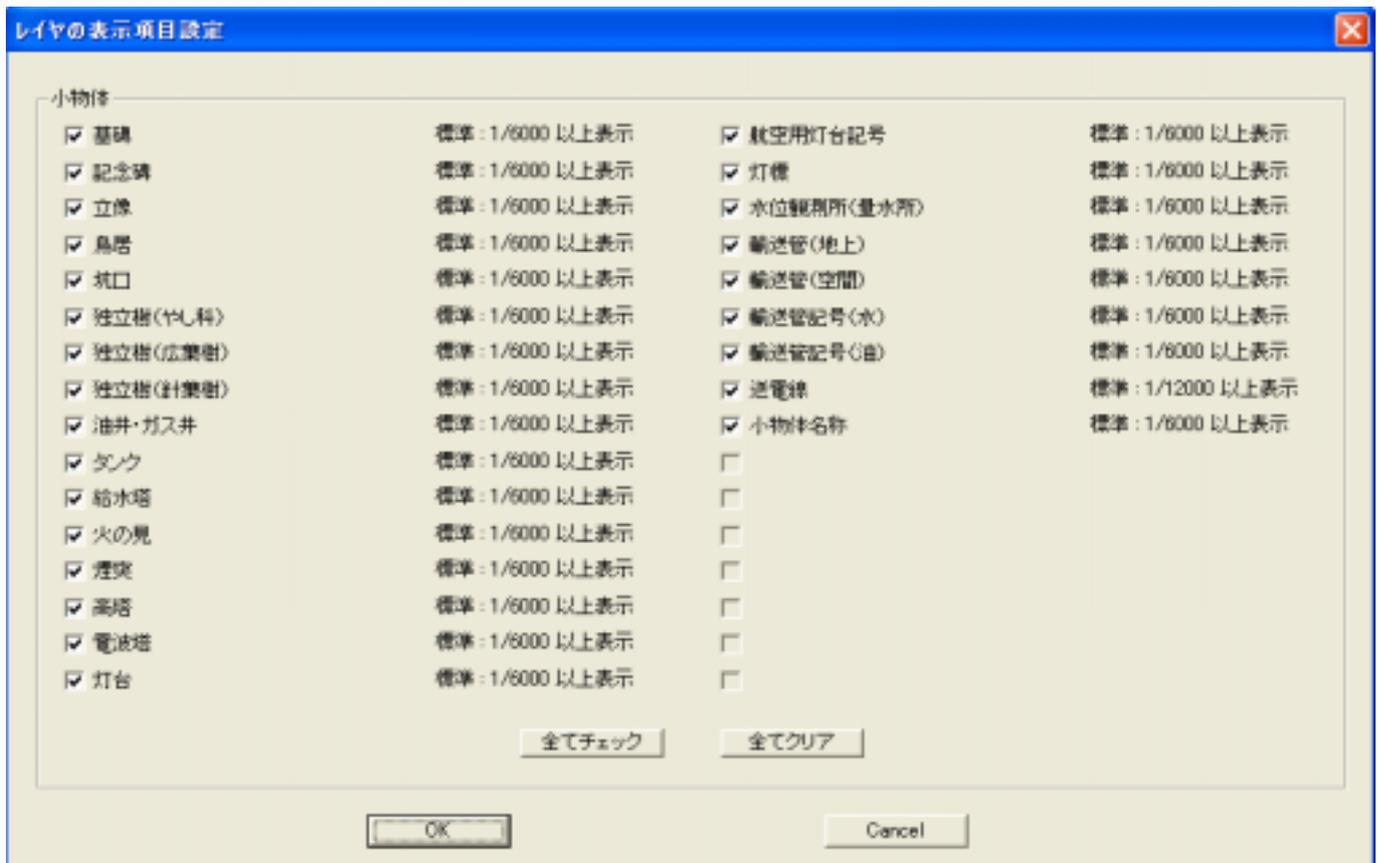
<注意> 標準レイヤの設定を変更することもできます。これについては「東京デジタルミュージアムバージョン5カスタマイズ説明」を参照して下さい。

#### (2) レイヤ指定表示

画面に表示する地図のレイヤ項目を選択して、表示することができます。

[レイヤ指定表示] を選ぶと、レイヤの大分類の項目が表示されますが、大分類を選ぶだけでなく、詳細設定で各項目を選んで確定してください。次頁にレイヤの大分類の項目および詳細項目の画面 [小物体] を例示します。





### (3) レイヤ保存・呼出し

表示レイヤ保存

ユーザ設定の「レイヤ指定表示」を保存します。

保存は一種類ですが、電源オフ後も有効です。

保存レイヤ呼出し

「レイヤ指定表示」で保存されたレイヤの地図が表示されます。

### (4) ユーザ設定レイヤ

これは表示したいレイヤを予め設定しておくものです。ユーザ設定レイヤは9組設定できます。

デフォルトでは「等高線レイヤ」1つだけが設定されています。

等高線レイヤ

7101

7102

7103

7105

7106

7107

8173

ユーザ設定レイヤの形式は、1行目が「レイヤ名称」で2行目以降に表示したいレイヤコードを並べたものです。

こうして作成されたテキストデータを u1ay01.txt から u1ay99.txt までの9組設定できます。

ユーザ設定レイヤ定義ファイルはu t i lフォルダーに置く必要があります。

デフォルトの状態、このプルダウンを選ぶと以下の画面が現れます。

もし、ユーザ設定レイヤがあれば、このリストボックスに記載されてゆきます。



## 2.1.2 表示モード

### (1) 標準カラー表示

システムで設定してあるカラーで地図が表示されます。

### (2) モノクロ表示

地図がモノクロで表示されます。

モノクロ印刷を行う場合は、このモードで実行すると、鮮明な白地図が得られます。

### (3) ユーザ設定表示と表示のユーザ設定

[ ユーザ設定表示 ] を選ぶと、次項の [ 表示のユーザ設定 ] でユーザが設定した色、線種 (実線、一点鎖線、二点鎖線、点線)、線号 (線の太さ) で表示されます。何も設定しなければ標準カラー表示と同じになります。

[ 表示のユーザ設定 ] を選択すると、個々の詳細項目に対して色、線種 (実線、一点鎖線、二点鎖線、点線)、線号 (線の太さ) が設定できます。線号は実線の時のみ有効です。レイヤの大分類の項目を選んだ後、詳細項目に対して線種、線号、色を選択して下さい。以下にレイヤの大分類の項目および詳細項目の画面例を示します。





[ユーザ設定-->標準]を選択すると、ユーザ設定の内容つまり[表示のユーザ設定]を標準カラー表示に戻します。ここから、また上記の[表示のユーザ設定]で、変更したい項目について設定を変えることができます。

## 2.2 図上レイヤ検索

地図上の地形データがDMのどのレイヤ項目かを示します。

メニューバーの[図上レイヤ検索]で行います。サブメニューを示します。



### 2.2.1 線・面レイヤ検索

プルダウンの[線・面レイヤ検索]をクリックし、画面下のメッセージに従い、線または面をマウス左ボタンでクリックしてください。クリックされた線や面が、DMの地形データのどのような分類にあたるデータかが表示されます。等高線のように標高値を持つデータはその標高も表示されます。

<注意>

検索すべき線・面が重複している時は、はじめに見つかったデータが対象となります。

### 2.2.2 点・シンボルレイヤ検索

プルダウンの[点・シンボルレイヤ検索]をクリックし、画面下のメッセージに従い、点またはシンボルをマウス左ボタンでクリックしてください。クリックされた点やシンボルの、DMでの地形データの分類と公共座標が表示されます。三角点のように標高値を持つデータはその標高も表示されます。

<注意>

検索すべき点・シンボルが重複している時は、はじめに見つかったデータが対象となります。

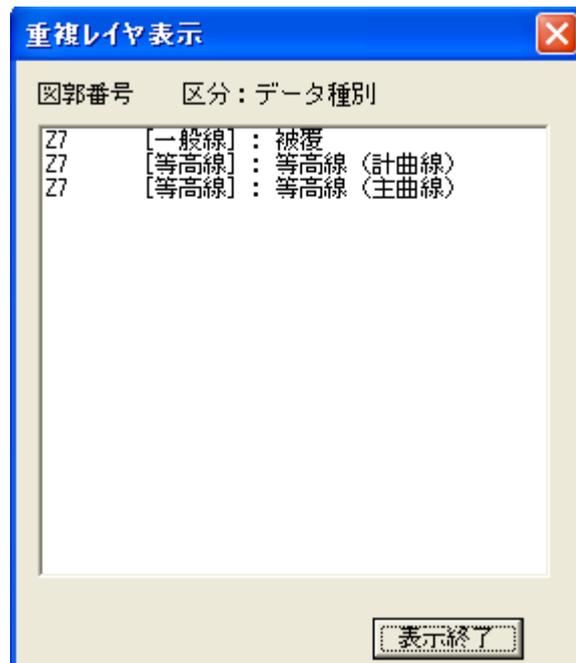
### 2.2.3 線・面レイヤ重複検索

プルダウンの[線・面レイヤ重複検索]をクリックし、画面下のメッセージに従い、線または面をマウス左ボタンでクリックしてください。クリックされた線や面データかがポップアップ画面で表示されます。

具体例を次頁に示します。

<注意>

図郭番号と共に重複レイヤが表示されます。

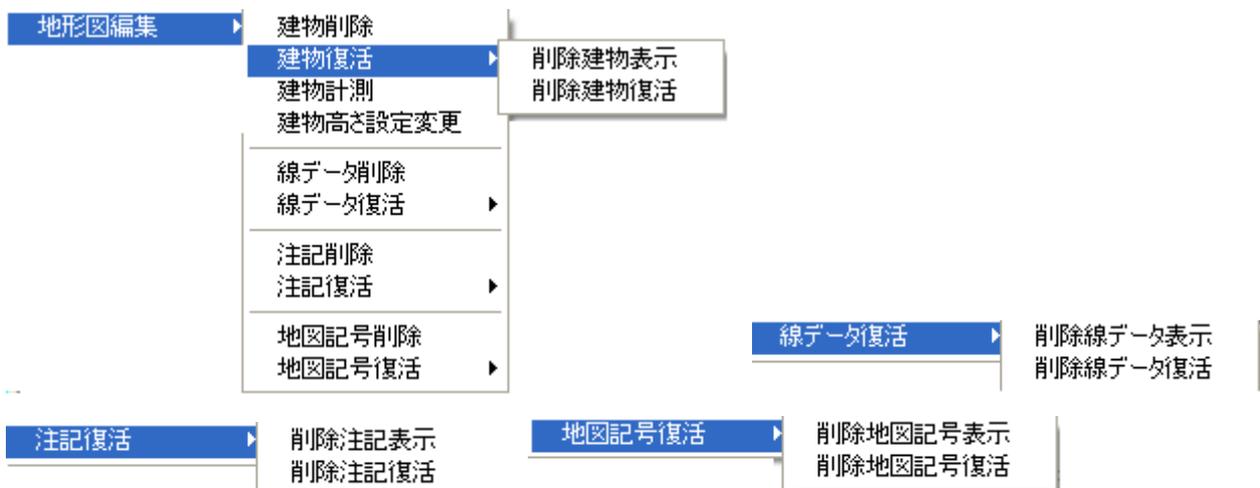


### 2.3 地形図編集

既に無くなっているDMの建物や注記、地図記号、線を仮削除したり、元に戻したりするものです。また、DMデータの個々の建物について面積や周長が表示できます。

<注意> DMのデータ自身はファイルに残っておりますので、システムを終了しても[削除データ復活]のメニューで、いつでも戻すことができます。

サブメニューを示します。



#### 2.3.1 建物削除

削除したい建物の内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。建物が削除され非表示となります。

#### 2.3.2 建物復活

##### 2.3.2.1 削除建物表示

これを選ぶと削除された建物が氷色で表示されます。

##### 2.3.2.1 削除建物復活

復活させたい建物の内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。復活します。

#### 2.3.3 建物計測

計測したい建物の内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。上のステータスバーに建物の面積と周長が表示されます。面積は平方mと坪で表示されます。

#### 2.3.4 建物高さ設定変更

[建物高さ設定変更]をクリックするとDMの建物高さを個別に設定変更できます。ユーザ建物の高さ変更はユーザマップで実行できます。

デフォルトの高さはDM建物もユーザ建物も同じで以下のようです。

普通建物：	6 m
堅牢建物：	10 m
100㎡未満	10 m
100㎡～330㎡	18 m
330㎡以上	35 m

高さを変更したいDM建物の内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。建物の高さ変更のダイアログが現れます。この画面で高さを **cm単位** で入力してください。



#### <注意>

建物を指定する際、通常の建物は「閉じた形状」ですから<形状内のどこか>を指定すれば良いのですが、不正規の場合建物は「開いた線」になっていますので、この場合は<線上のどこか>を指定して下さい。

該当する建物が「閉じた形状」か「開いた線」かは、アイコンの「DM線範囲表示」で調べられます。

#### 2.3.5 線データ削除

削除したい線データの内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。線データが削除され非表示となります。

#### 2.3.6 線データ復活

##### 2.3.6.1 削除線データ表示

これを選ぶと削除された線データが水色で表示されます。

##### 2.3.6.2 削除線データ復活

復活させたい削除線データの内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。復活します。

#### 2.3.7 注記削除

削除したい注記の内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。注記が削除され非表示となります。

#### 2.3.8 注記復活

##### 2.3.8.1 削除注記表示

これを選ぶと削除された注記が水色で表示されます。

##### 2.3.8.2 削除注記復活

復活させたい削除注記の内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。復活します。

#### 2.3.9 地図記号削除

削除したい地図記号の内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。地図記号が削除され非表示となります。

#### 2.3.10 地図記号復活

##### 2.3.10.1 削除地図記号表示

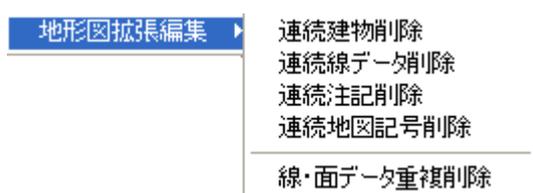
これを選ぶと削除された地図記号が水色で表示されます。

##### 2.3.10.2 削除地図記号復活

復活させたい削除地図記号の内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。復活します。

### 2.4 地形図拡張編集

DMの線・面データの重複削除や建物や線データ、注記、地図記号を連続的に削除する機能です。サブメニューを示します。



#### 2.4.1 連続削除

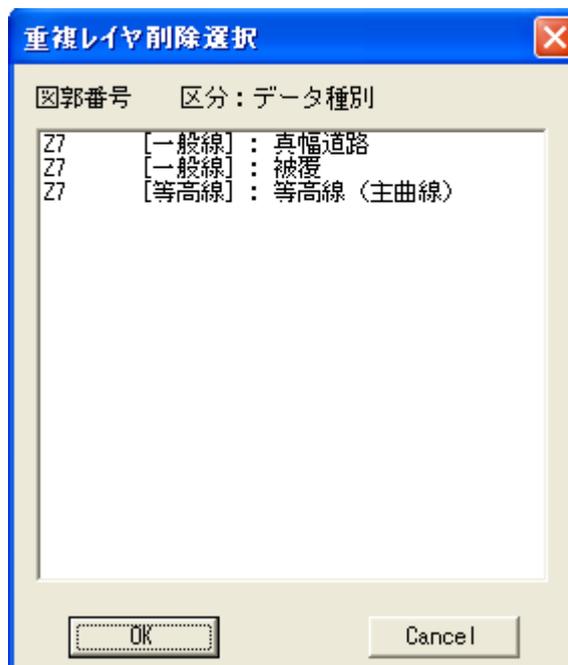
建物や線データ、注記、地図記号を連続的に削除できます。削除の仕方は2.3 地形図編集で述べた建物削除、線データ削除、注記削除、地図記号削除を繰り返して実行(マウス「左ボタン」で指示)するものですが、「右ボタン」を押下すると終了となります。

<注意>最後に押下した右ボタンは「終了の目印」です。削除対象にはなりません。

### 2.4.2 線・面データ重複削除

削除したい線・面データのどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。対象となる線・面データがポップアップ画面で表示されます。操作は [線・面レイヤ重複検索] と同様です。

具体例を示します。



このうちで削除したいデータのみマウス左ボタンで選択します。[OK] ボタンで選択(反転)されたデータが全て削除されます。

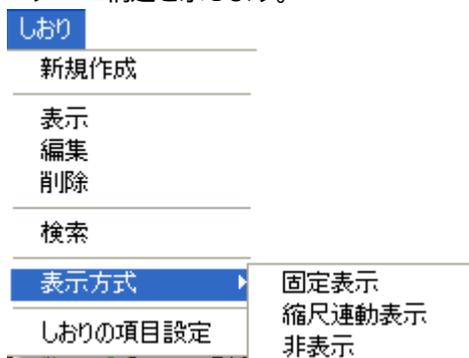
<注意>

図郭番号と共に重複データが表示されます。削除されたデータの復活は「2.3.2 削除建物復活、2.3.6 削除線データ復活、2.3.8 削除注記復活、2.3.10 削除地図記号復活」により実行できます。

## 3. しおり

メモや、簡易のカード型データベースの趣を持った「しおり」の機能です。しおりの項目設定(グループ定義)は一番下のメニューで行います。ここで、項目名、シンボル、色が定められます。しおりの項目は予め2種類設定されていますが、削除や変更も可能です。

しおりの項目を設定した後、しおりを作成したり、作られたしおりの内容を表示したり、修正・削除できます。しおりの検索では、項目つまりグループ毎に、作成されたしおりを一覧表示から選択することができ、大変有用です。メニュー構造を示します。



### 3.1 しおりの項目設定

メニューバーの [しおり] - [しおりの項目設定] を選択します。

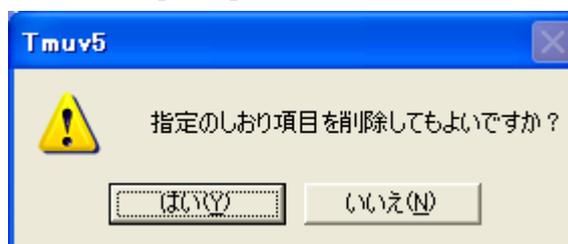
次頁の左画面が現れます。

[追加] でしおりの項目(グループの定義)を増やせます。右画面のように項目の記述とシンボル、色の選択を行います。[修正] は設定したしおりの項目を変更します。修正の画面は追加の画面と同じですが、追加の場合は全て欄が空白に対して、修正では現行の内容が表示されて現れます。

[削除] で設定したしおりの項目を削除します。



削除の際は次のような削除確認の画面が現れ、[はい] で削除されます。

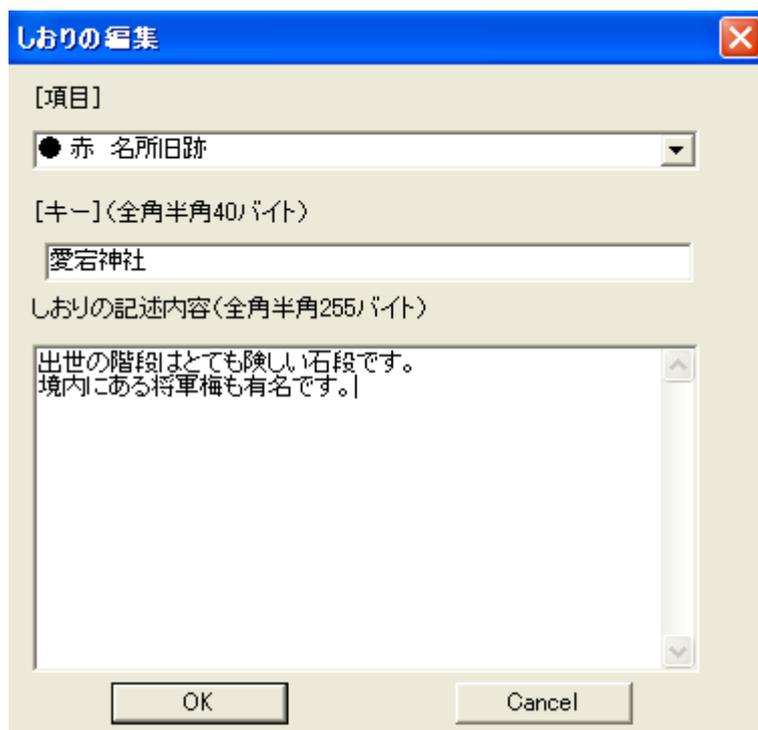


### 3.2 しおりの新規作成

しおりを新規に作成します。メニューバーの[しおり] - [新規作成] を選ぶと、以下のようなガイダンスメッセージが表示されます。

「しおりの登録地点をマウス左ボタンで指示して下さい。(右: キャンセル)」

登録したい地点をマウス左ボタンでクリックします。以下のような登録画面がポップアップします。項目(グループ)、キー、記述内容ともに空白で現れます。



項目をドロップダウンから選択します。しよりの項目(グループ)は予め幾つか設定されています。キーは40バイトまでであれば、全角、半角どちらでもOKです。しよりの記述内容は255バイトまでです。全角、半角は問いません。空白の欄に入力して下さい。登録されたしよりはシンボル表示されます。しよりの検索では、ここで設定された項目とキーから選択することになります。

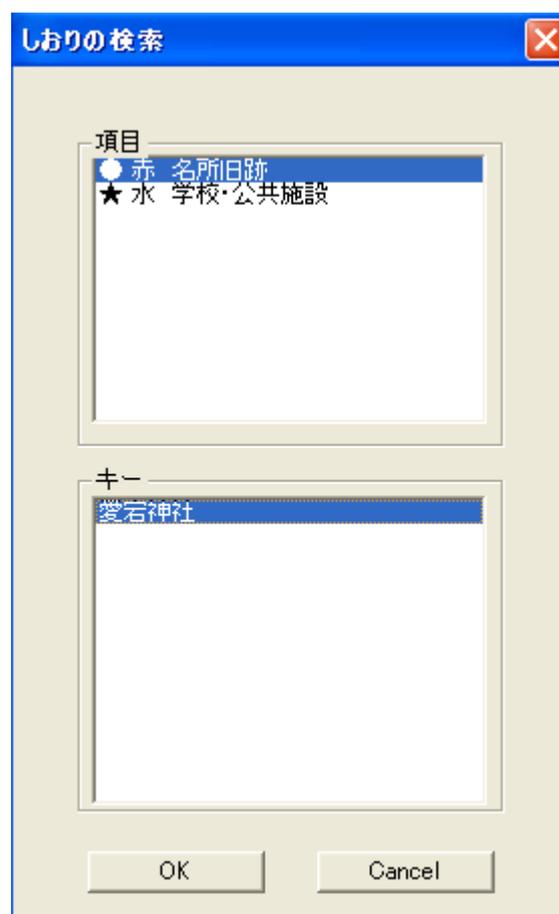
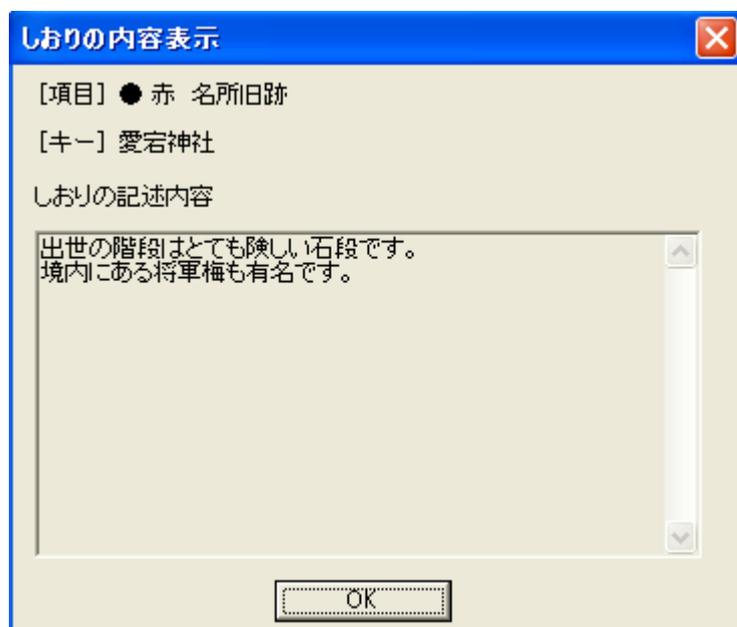
### 3.3 しよりの表示と編集

#### (1) 表示

メニューバーの[しより] - [表示]を選ぶと、登録されたしよりの内容が表示されます。以下のようなガイダンスメッセージが表示されますので、表示したいしよりのシンボルをクリックして下さい。

「対象となるしよりをマウス左ボタンで指示して下さい。(右:キャンセル)」

登録されているしよりの内容が次図左のように表示されます。



#### (2) 編集

メニューバーの[しより] - [編集]を選ぶと、登録されたしよりの内容を修正できます。以下のようなガイダンスメッセージが表示されますので、修正したいしよりのシンボルをクリックして下さい。

「対象となるしよりをマウス左ボタンで指示して下さい。(右:キャンセル)」

新規作成の時と同じような画面が、今度は、現に設定されている内容で現れます。項目、キー、記述内容を全て修正できます。

#### (3) 削除

メニューバーの[しより] - [削除]を選ぶと、登録されたしよりが削除されます。表示や編集と同じガイダンスメッセージが表示されますので、削除したいしよりのシンボルをクリックして下さい。

### 3.4 しよりの検索

メニューバーの[しより] - [検索]を選ぶと、上図右のような登録画面がポップアップします。項目分類毎に登録されたしよりが一覧表示されますので、必要なしよりを検索することができます。この時、検索されたしよりの中心は赤の+マークで表示されます。このマークは[検索表示消去]のアイコンをクリックすると消えます。

### 3.5 しよりの表示方式

ユーザマップの表示等でしよりが邪魔な時、しよりを非表示にできます。[固定表示]はしよりのシンボルをいつも同じ大きさで表示、[縮尺連動表示]は縮尺に応じて大きさを変える表示(ただし広域の表示では一定の大きさで表示されます)、[非表示]はしよりを非表示にするものです。

#### 4 . ユーザマップカテゴリー

ユーザマップは、地物を分類してクラス分け（カテゴリー化）し、さらに属性データベースと連動させることができるものです。これにより、さまざまな高精度マッピングシステムやGISが実現できます。

属性を持たない場合でも、ユーザマップは地図上に新しく建物、公園、地域等の形状や、各種の線、注記や注記の囲み記号、シンボルを書き込むことができ、階層化されたマップとして有用に使用できますが、真骨頂は属性データベースと連動したGISあるいは高精度マッピングシステムの構築にあります。

ユーザマップはクラス分け（カテゴリー化）された地形図を、最大2000種まで階層化でき、それぞれのカテゴリー毎に個別に表示したり、全てを同時に表示したりでき、とても有用に使用できます。

ユーザマップを高度に使用できるよう、実際のユーザマップの入力や編集を行う機能を[ユーザマップ編集]とし、ユーザマップの使用を容易にする機能を[ユーザマップカテゴリー]として分離してあります。さらに構築されたGISあるいは高精度マッピングシステムを利用する機能、つまり属性キー検索や属性表示を行う機能を[検索・表示]として別に分離しています。

ここで述べる[ユーザマップカテゴリー]で、カテゴリーの設定（クラス分け）を行ったり、入力するカテゴリーの指定、表示カテゴリーの選択をしたりします。また、属性データベース台帳の呼出しや、入力されたマップと属性キーとの対応付けも、ここで実行します。

ユーザマップカテゴリーのメニュー構造を示します。

ユーザマップカテゴリー
カテゴリー設定
表示カテゴリー選択 入力・編集カテゴリー選択
データベース台帳呼出し
属性キー対応付け

##### 4 . 1 カテゴリー設定

[カテゴリー設定]によりユーザマップのためのマップカテゴリーが設定できます。

初期設定ではカテゴリーは1つ「1000 N 一般」が設定されております。

ここで、カテゴリーコードは1001から9999までの任意の数値で半角数字の入力となります。ただし、カテゴリーの総数は最大2000です。カテゴリー名称は漢字・半角英数字40バイト以内で自由に設定できます。このタイトルがカテゴリーの選択のベースになりますから、識別し易い名称をお勧めします。

その下の属性区分が属性データベースとの連動の鍵となるものです。ユーザマップは個々のカテゴリー毎に、面形状、線データ、注記、注記囲み記号、シンボルが入力・編集できますが、属性を持たせられるのは1つのカテゴリーでは1つの属性区分の地図形状（マップ）のみです。属性区分は「面」や「線」あるいは「点シンボル」です。

## &lt;注意&gt;

ここでいう「点シンボル」とは「ユーザシンボル」と「定色シンボル」のことです。ユーザ注記・記号の「一文字の記号」は注記として扱われ、「点シンボル」とはなりません。

前に設定したカテゴリと同じコードは設定できません。間違えて設定しようとしても次のようなメッセージが現れます。



[既存マップカテゴリ表示] を押して、どんなカテゴリがどんな属性区分で設定されているか、カテゴリコードとしてどの値が設定されているか確認して、正しい値を指定して下さい。

設定例を示します。

コード	1001	コード	2001
カテゴリ名称	CAT1001	カテゴリ名称	CAT2001L
属性区分	属性なし	属性区分	線に属性

で設定してみます。

次に [カテゴリ設定] を選んだ際、[既存マップカテゴリ表示] ボタンを押下すると設定したカテゴリが登録されているのが確認できます。カテゴリリストは作成された順ではなく、コード順に表示されます。



#### 4.2 表示カテゴリ選択

[表示カテゴリ選択] はどのマップカテゴリを表示するかの指定です。デフォルトでは「全て表示」となります。

[入力・編集カテゴリ選択] は「1つ」の指定ですが、[表示カテゴリ選択] は「複数」指定できます。

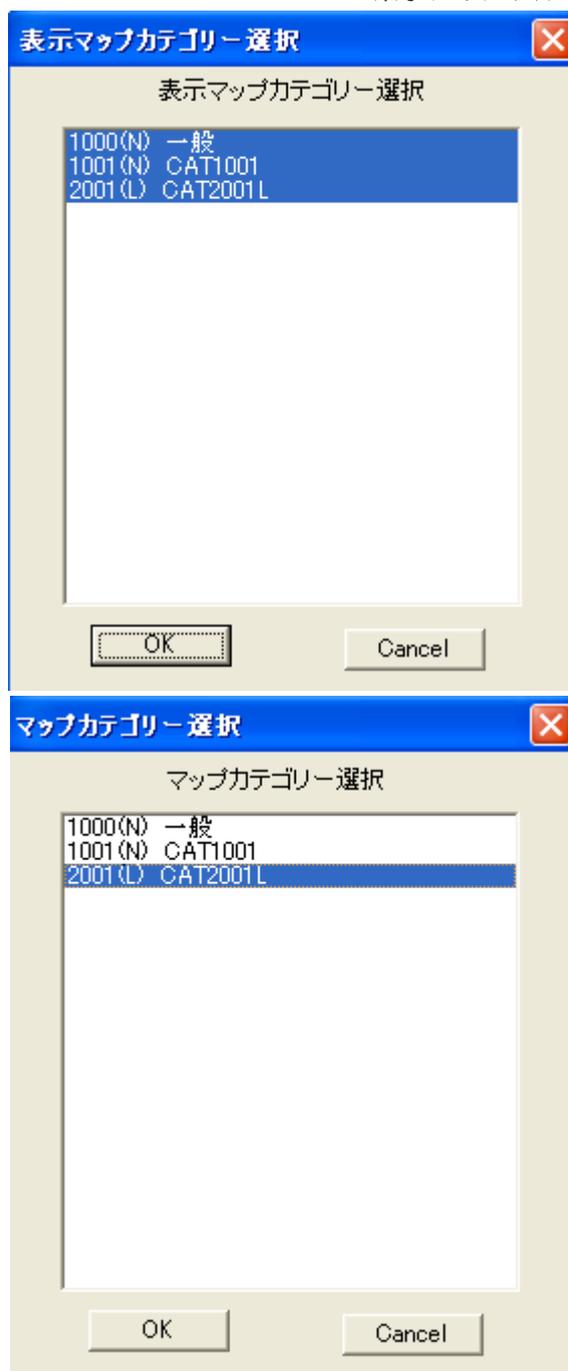
次頁に「表示マップカテゴリ選択」画面を示します。ここで、非表示にしたいカテゴリをオフにします。

#### 4.3 入力・編集カテゴリ選択

[入力・編集カテゴリ選択] はどのマップカテゴリを入力・編集するかの指定です。

マップカテゴリは最大2000種のカテゴリを定義できますが、入力・編集対象となるのはどれか1つのカテゴリです。属性キーの設定や、データベース台帳の呼出し時にも [入力・編集カテゴリ選択] で指定して下さい。

次頁に「マップカテゴリ選択」画面を示します。



#### 4.4 データベース台帳呼出し

[データベース台帳呼出し]を押下すると、選ばれたマップカテゴリに対応した属性データベースが呼び出されます。最初は「空」つまり以下の画面のようなデータベースとなります。

	A	B	C	D
1	キー(全角)	項目1	項目2	
2				
3				
4				
5				
6				

キーは全角20文字以内で必ず入力しておいて下さい。

キーを含め属性が設定されていれば、その状態で属性データベースが表示されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	キー(全角)	年度	工事名	着手年月日	完成年月日	施工業者名	工事起点	施工延長	備考1	備考2
2	K101	H13	日比谷公園	H13.5.1	H13.8.31	清水前田苑	公園前交差	1.6Km	周辺閑静	騒音注
3	K102	H14	霞ヶ関工事	H14.4.11	H14.8.30	共立戸田苑	霞ヶ関交差	2.4Km		
4	K103	H14	内幸町工事	H14.5.15	H14.9.10	大林鴻池組	内幸町一丁	0.8Km	平日人通り多し	
5										

データベースの入力や追加、修正を行った後、「上書き保存」して下さい。

キーは必ず「全角」20文字以内で入力して下さい。

<注意>

データベース台帳はCSV形式のテキストファイルとなります。Excelがインストールされていれば自動的にExcelで開かれますが、Accessや他のデータベースソフトあるいは「メモ帳」等のエディターで開くことも可能です。

ファイルはカテゴリーコードに対応して、例えばコードが2001であれば、Usrmapフォルダーの下のUC2001サブフォルダーに、usrDB2001.csv という名称で置かれます。

このことを利用して、予め外部で属性データベースを作成しておき、このフォルダーに複写すれば「4.4 データベース台帳呼出し」の機能で自由に編集できるようになります。

#### 4.5 属性キー対応付け

[属性キー対応付け]はデータベース台帳の属性と画面上の地図形状(マップ)との対応付けを行うものです。

属性キーの対応付けは以下の手順で実行します。

まず「4.3 入力・編集カテゴリー選択」の「マップカテゴリー選択」画面で入力・編集の対象となるマップカテゴリーを選びます。

属性を持っている地図形状(マップ)を「5. ユーザマップ編集」機能を使って入力します。

属性データベースを「4.4 データベース台帳呼出し」で呼び出して、「キー」の項目を設定します。データベースは「上書き保存」します。

ここから、「属性キー対応付け」の操作です。

属性を持っている地図形状(マップ)をマウス左ボタンでクリックします。

ポップアップする「キー一覧リスト」から、その地図形状(マップ)に対応するキーを選べば、マップと属性データベースがキーにより対応付けられます。

キー一覧リストのポップアップ画面の例を以下に掲げます。

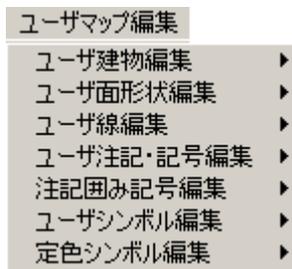


## 5 . ユーザマップ編集

ユーザマップの入力・編集は、ユーザマップカテゴリの[入力・編集カテゴリ選択]で、入力対象となるカテゴリを指定してから行わなければなりません。

ユーザマップの削除は建物であれ、面形状、線データ、注記・記号、シンボルであれ、DM地形図とは異なり、みかけ上の削除ではなく本当の削除です。ただし、プログラムの実行終了まではいつでも復活できます。実行の終了時に、削除データを抹消するか否か問合せがあります。これにより削除を繰り延べしていくこともできます。

メニュー構造は以下のようです。



### 5 . 1 ユーザ建物編集

DMの建物の代替物として、建物を入力する場合にこの機能が有効です。

サブメニューを示します。



#### 5 . 1 . 1 ユーザ建物入力



プルダウンで[堅牢建物]か[普通建物]を選び、画面下のメッセージに従い建物形状を入力してください。

入力方法は後述の面積計測と同じです。5角形の場合は5点入力です。

画面を動かしながらユーザ建物入力を行う場合は、CTRLまたはShiftキーを押しながら、左ボタンをクリックして下さい。マウスの位置が画面中心になるように移動します。

#### 5 . 1 . 2 ユーザ建物修正



##### 5 . 1 . 2 . 1 修正建物指定

ユーザ建物の修正を行います。ユーザ建物の内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。頂点がXマークで青色表示されます。

##### 5 . 1 . 2 . 2 建物頂点移動

修正建物指定されたユーザ建物の移動したい頂点をマウスでクリックして下さい。赤くなります。次に移動先をマウスでクリックして下さい。

##### 5 . 1 . 3 ユーザ建物高さ変更

入力したユーザ建物の高さを変更できます。

高さを変更したいユーザ建物の内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。建物高さの変更画面が現れます。



建物高さをcm単位で設定して下さい。

##### 5 . 1 . 4 ユーザ建物削除

入力したユーザ建物を削除します。

削除したいユーザ建物の内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。ユーザ建物が削除され非表示となります。

### 5.1.5 ユーザ建物復活



削除されたユーザ建物を復活させます。削除建物の復活は続けて実行できます。

#### 5.1.5.1 削除建物表示

これを選ぶと削除されたユーザ建物が水色で表示されます。

#### 5.1.5.2 削除建物復活

復活させたい削除ユーザ建物の内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。復活します。

### 5.2 ユーザ面形状編集

地域、公園、敷地等自由に面形状を入力できます。また、表示の変更も行うことができます。サブメニューを示します。

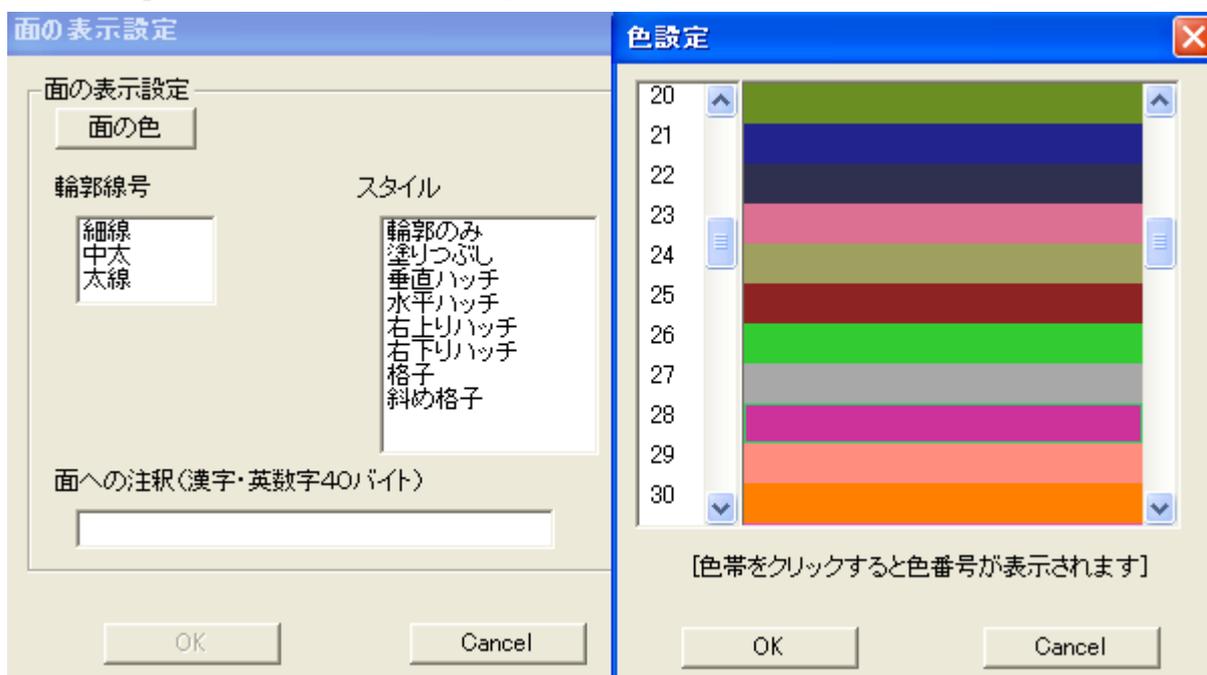


#### 5.2.1 面の表示指定



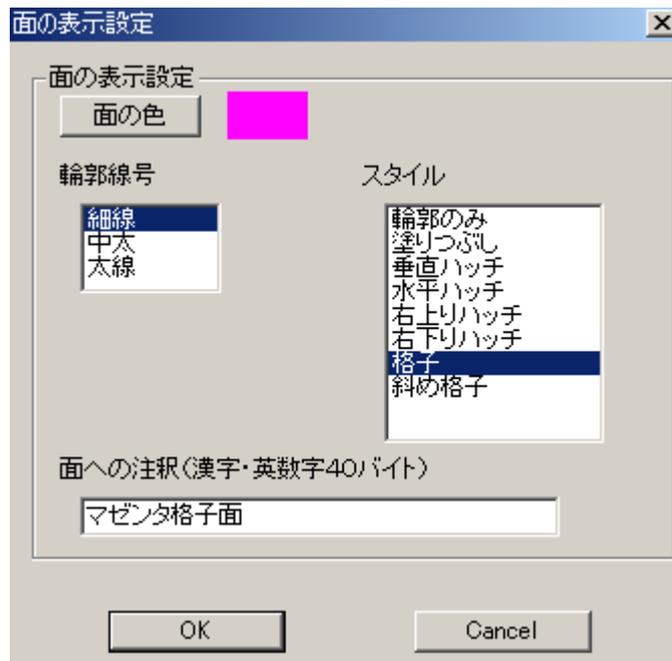
[面表示の選択] は予め登録されている面表示のリストから選択するものです。ここで選ばれた面表示は次の指定があるまで、引き継がれます。

[面表示の設定] で新しい表示面を登録できます。

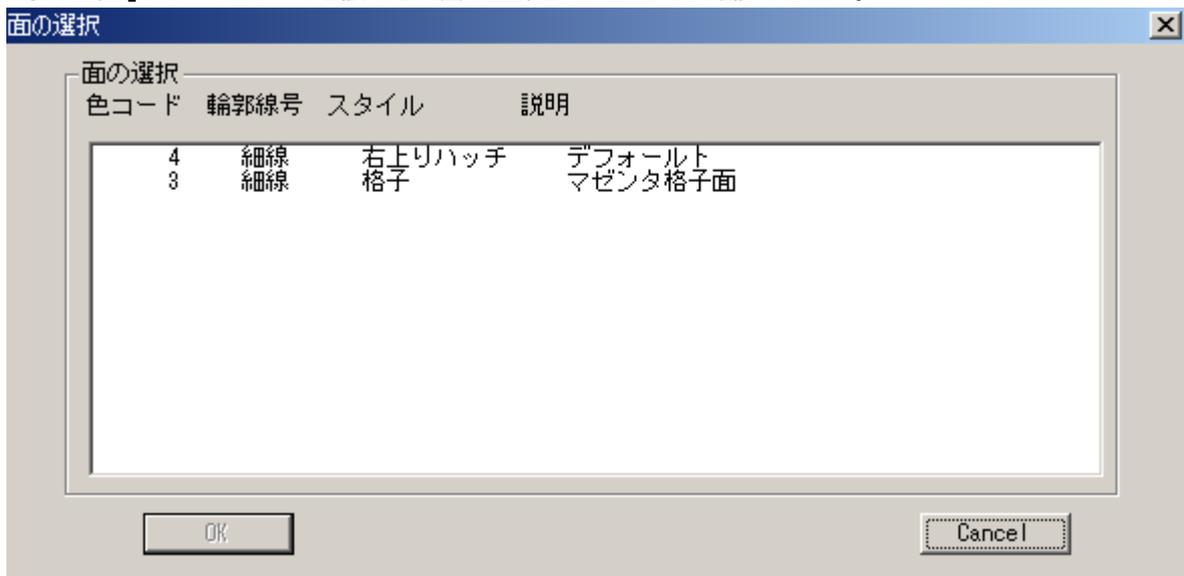


[面の色] ボタンを押すと色設定の画面が現れます。ここで一覧からマゼンタを選び [OK] を押下します。

面の表示設定画面で [面の色] のボタンの横に色が表示されます。輪郭線号とスタイルを選び、面への注釈を漢字・英数字 40 バイトで記入します。この注釈が [面表示の選択] の一覧リストになります。



[面表示の選択] をクリックすると設定した面が登録されているのが確認できます。



### 5.2.2 ユーザ面形状入力



ユーザ面形状が入力されると、[面表示の選択] で選ばれた面に表示され、面積と周長が画面上のメッセージ欄に表示されます。[面表示の選択] がされてなければ、デフォルトの緑色の右上りハッチで表示されます。

#### (1) 矩形入力

画面下のメッセージに従いマウスで矩形を入力してください。矩形はラバーバンドで入力します。途中で右ボタンをクリックするとキャンセルとなります。

#### (2) 円形入力

画面下のメッセージに従いマウスで円形を入力してください。円は中心を指定し、その後ラバーサークル(ラバーバンドと同様の入力)で決定します。途中で右ボタンをクリックするとキャンセルとなります。

#### (3) 多角形入力

画面下のメッセージに従い多角形を入力してください。

入力方法は後述の面積計測と同じです。5角形の場合は5点入力です。

### 5.2.3 建物複写ユーザ面

DMの建物を複写してユーザ面形状にできます。これにより、建物が個別に色塗りあるいはハッチがかけられます。

ここで作られるのは「ユーザ面」で「ユーザ建物」とは異なります。そのため建物としては認識されません。DMの建物が色塗りされているように見えても、実際にはDMの建物が「ユーザ面」として複写され、その面が色塗りされています。

建物オンオフのアイコンでオフにすると色塗りだけが残ります。

### 5.2.4 ユーザ線結合で面作成

[ユーザ線編集]で作成された線を結合して面形状を生成する機能です。具体的な例では、道路を面塗りすることがあげられます。道路線を[DM線複写]で複写します。不要な部分を分割して削除します。所要の部分を結合して面形状を作成すれば、道路面が構成できます。このように[ユーザ線結合で面作成]の機能は驚くほど強力な道具となります。作成される面は最大点数が1000点までです。

面構成の対象となるユーザ線をマウス左ボタンで次々にクリックします。全ての指定が完了すればマウス右ボタンを押下します。マウス右ボタンは単に終了の意味しか持ちません。最近接点同士が結ばれて面が構成されますので、ユーザ線の指定順序も関係ありません。

### 5.2.5 ユーザ面表示変更

ユーザ面形状の表示スタイルと色の変更が行えます。

[表示スタイル]を選ぶと輪郭の線号と8種のスタイルが選べます。

[表示色]を選んで好みの色をマウスでクリックしてください。

### 5.2.6 ユーザ面修正



ユーザ面形状の修正を行います。修正面指定を行うと頂点移動は続けて実行できます。

#### 5.2.6.1 修正面指定

修正したいユーザ面形状の内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。頂点がXマークで青色表示されます。

#### 5.2.6.2 ユーザ面頂点移動

修正面指定を行ったユーザ面形状の移動したい頂点をマウスでクリックして下さい。赤くなります。次に移動先をマウスでクリックして下さい。頂点が移動されます。

### 5.2.7 ユーザ面削除

入力したユーザ面形状を削除します。削除したいユーザ面形状の内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。ユーザ面形状が削除され非表示となります。

### 5.2.8 ユーザ面復活



削除されたユーザ面形状を復活させます。削除面の復活は続けて実行できます。

#### 5.2.8.1 削除面表示

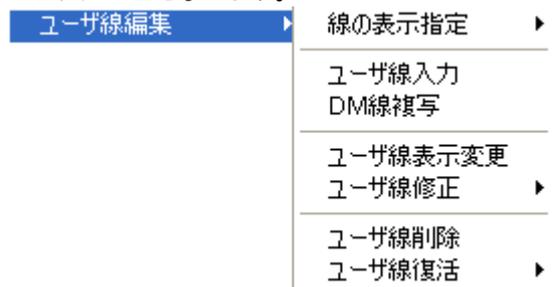
これを選ぶと削除されたユーザ面形状が水色で表示されます。

#### 5.2.8.2 削除面復活

復活させたい削除ユーザ面形状の内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。復活します。

## 5.3 ユーザ線編集

地図上に矢線や点線等の線データを入力できます。また、線データの編集や表示の変更も行えます。サブメニューを示します。

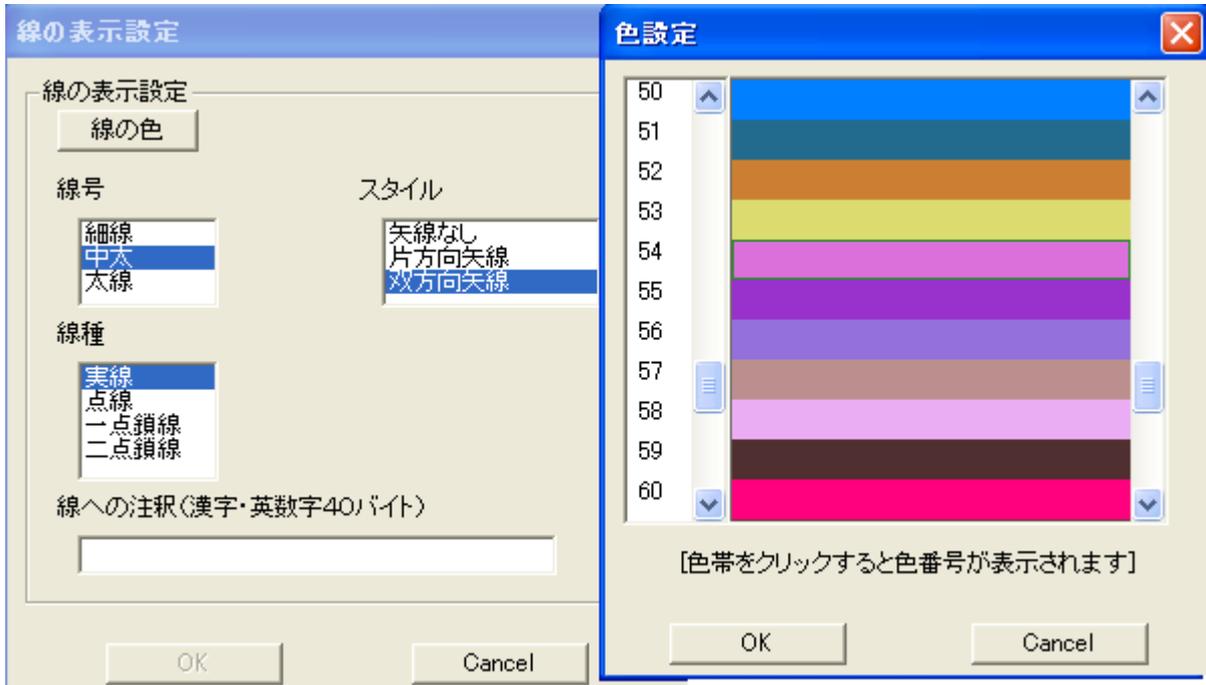


### 5.3.1 線の表示指定



[線表示の選択] は予め登録されている線表示のリストから選択するものです。ここで選ばれた線表示は次の指定があるまで、引き継がれます。

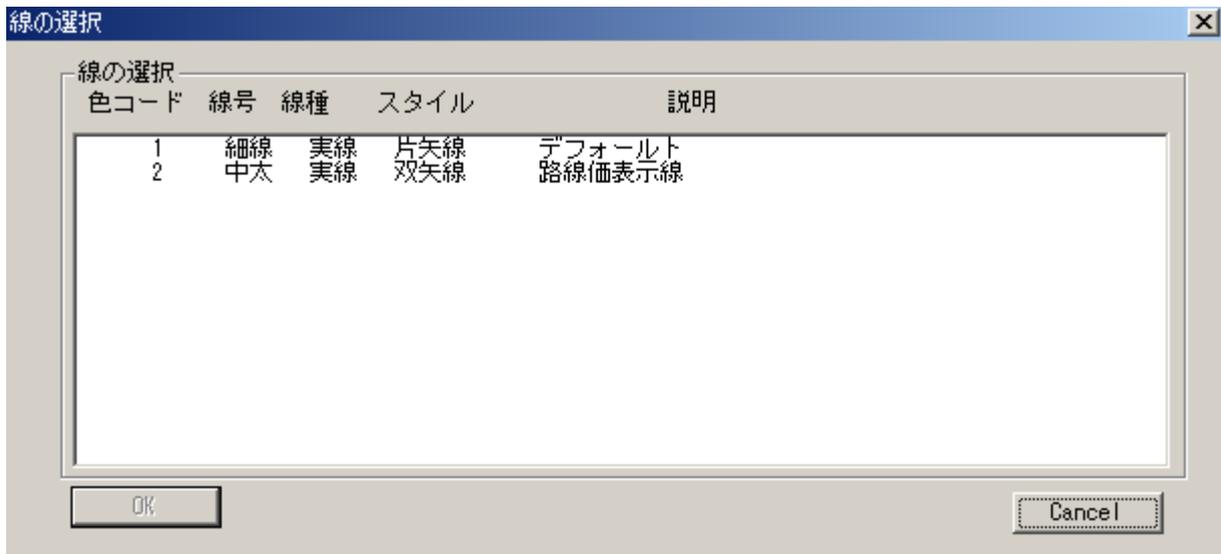
[線表示の設定] で新しい線の表示を登録できます。



[線の色] ボタンを押すと色設定の画面が現れます。ここで一覧から赤を選び [OK] を押下します。

線の表示設定画面で [線の色] のボタンの横に色が表示されます。線号、線種とスタイルを選び、線への注釈を漢字・英数字 40 バイトで記入します。この注釈が [線表示の選択] の一覧リストになります。

[線表示の選択] をクリックすると設定した線が登録されているのが確認できます。



### 5.3.2 ユーザ線入力

画面下のメッセージに従いユーザ線データを入力してください。入力方法は後述の距離計測と同じです。[線表示の選択] で選ばれた線で表示されます。[線表示の選択] がされてなければ、デフォルトの青色で片方向の矢線が表示されます。

画面を動かしながらユーザ線入力を行う場合は、CTRLまたはShiftキーを押しながら、左ボタンをクリックして下さい。マウスの位置が画面中心になるように移動します。

### 5.3.3 DM線複写

指定したDMの線を複写してユーザ線とします。線データは最大点数が1000点までです。[線表示の選択] で選ばれた

線で表示されます。[線表示の選択]がされてなければ、デフォルトの青色で片方向の矢線が表示されます。

この機能は単独の機能としてではなく[ユーザ線結合で作成]の機能と組み合わせると強力な道具立てとなります。

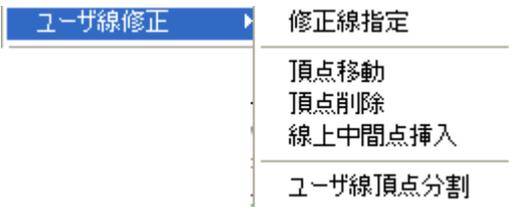
#### 5.3.4 ユーザ線表示変更

ユーザ線の表示スタイルと色の変更が行えます。

[表示スタイル]を選ぶと線の種別、線種が選べます。特に、実線の場合は線号も選べます。

[表示色]を選んで好みの色をマウスでクリックしてください。

#### 5.3.5 ユーザ線修正



入力したユーザ線を修正します。

##### 5.3.5.1 修正線指定

修正したいユーザ線のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。頂点がXマークで青色表示されます。

##### 5.3.5.2 頂点移動

修正線指定を行ったユーザ線の、移動したい頂点をマウスでクリックして下さい。赤くなります。次に移動先をマウスでクリックして下さい。頂点が移動されます。

##### 5.3.5.3 頂点削除

修正線指定を行ったユーザ線の、削除したい頂点をマウスでクリックして下さい。頂点が削除されます。

ユーザ線が2点から成る時は、頂点の削除はできません。

##### 5.3.5.4 線上中間点挿入

修正線指定を行ったユーザ線で、中間点を挿入したい線上の位置をマウスでクリックして下さい。中間点が挿入されます。

この機能と次項の頂点分割の機能を使えば、2点から成るユーザ線を切断することができます。

##### 5.3.5.5 ユーザ線頂点分割

ユーザ線を端点以外の頂点で分割します。修正線指定を行ったユーザ線で、分割したい端点以外の頂点をマウス左ボタンで指定します。ユーザ線がその頂点で分割されます。

ここで頂点分割されたユーザ線は2つの別々の線となるため、以後は修正対象とはなりません。

#### 5.3.6 ユーザ線削除

入力したユーザ線を削除します。削除したいユーザ線のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。ユーザ線が削除され非表示となります。

#### 5.3.7 ユーザ線復活



削除されたユーザ線を復活させます。削除線の復活は続けて実行できます。

##### 5.3.7.1 削除線表示

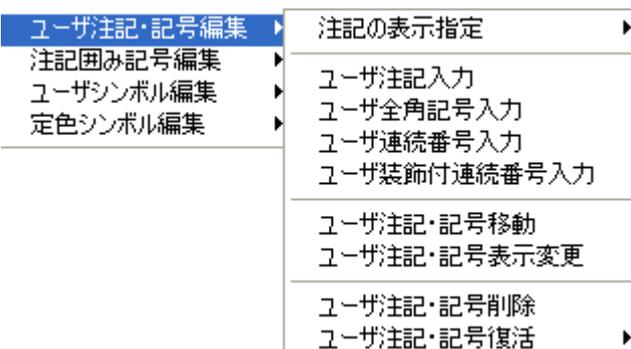
これを選ぶと削除されたユーザ線が水色で表示されます。

##### 5.3.7.2 削除線復活

復活させたい削除ユーザ線のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。復活します。

#### 5.4 ユーザ注記・記号編集

画面上に注記(全角20文字以内)または全角記号が入力できます。また、注記・記号のサイズ、色の変更や移動もできます。サブメニューを示します。

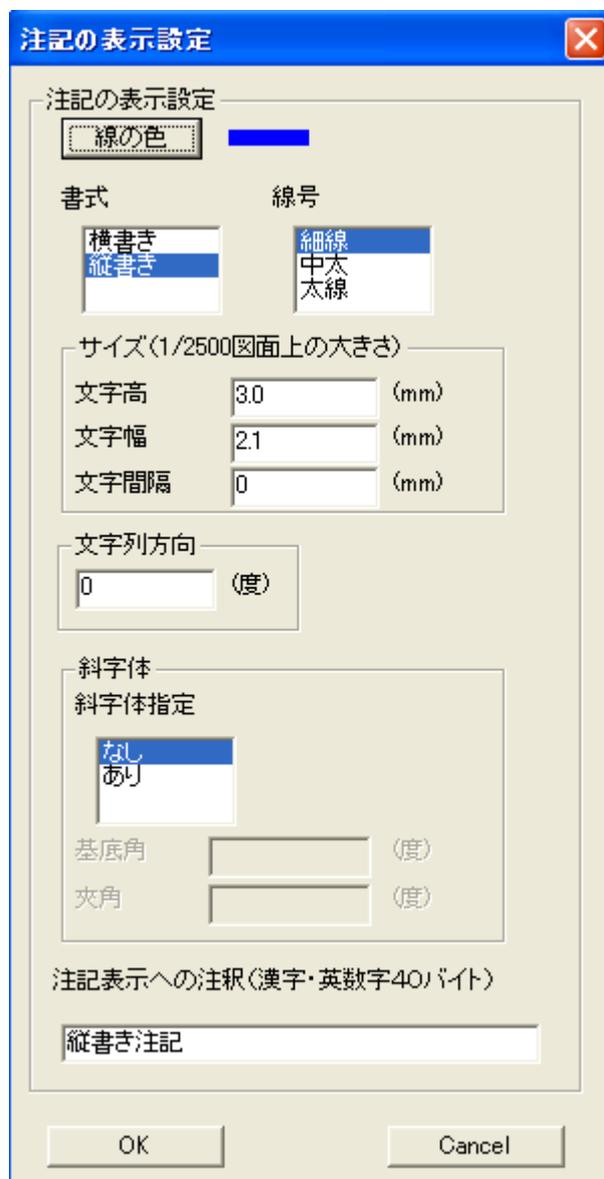


## 5.4.1 注記の表示指定



[ 注記表示の選択 ] は予め登録されている注記表示のリストから選択するものです。ここで選ばれた注記表示は次の指定があるまで、引き継がれます。

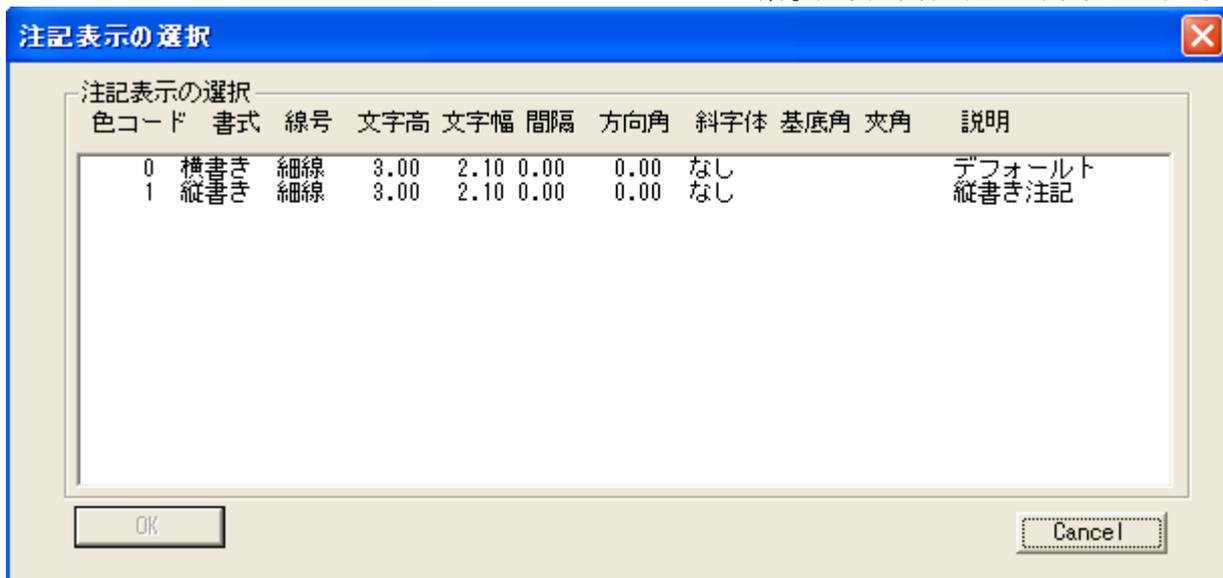
[ 注記表示の設定 ] で新しい注記表示を登録できます。



[ 線の色 ] ボタンを押すと色設定の画面が現れます。ここで一覧から青を選び [ OK ] を押下します。

注記の表示設定画面で [ 線の色 ] のボタンの横に色が表示されます。書式、線号を選び、サイズ(文字高、文字幅、文字間隔)、文字列方向を入力し、必要なら斜字体の指定を行います。注記表示への注釈を漢字・英数字40バイトで記入します。この注釈が [ 注記表示の選択 ] の一覧リストになります。

[ 注記表示の選択 ] をクリックすると設定した注記表示が登録されているのが確認できます。



#### 5.4.2 ユーザ注記入力

[ユーザ注記入力]を選ぶと、画面左上に入力のボックスが表示されます。**全角20文字以内で注記を入力し、Enter**して確定してください。次に[OK]ボタンを押し、画面下メッセージに従い、注記の始点位置をマウス左ボタンでクリックしてください。

#### 5.4.3 ユーザ全角記号入力

[ユーザ全角記号入力]を選ぶと、画面左上に全角記号のボックスが表示されます。記号を選んで、[OK]ボタンを押して下さい。画面下メッセージに従い、記号の中心位置をマウス左ボタンでクリックしてください。

#### 5.4.4 ユーザ連続番号入力

開始番号、終了番号、刻みを入力(半角数字で入力)し、表記位置をマウス左ボタンで順に指示して下さい。多くの数値を入力する際、驚く程効率的です。(例えば100から200まで5おき)

#### 5.4.5 ユーザ装飾付連続番号入力

上記[ユーザ連続番号入力]と同様ですが、数値の前、後に括弧や特殊記号、漢字が付与できます。**前、後の装飾文字は全角で入力**して下さい。(例えば3-489、(100)や{\*30})

#### 5.4.6 ユーザ注記・記号移動

移動させたいユーザ注記・記号のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。注記・記号を囲む長方形が表示されます。その長方形をドラッグして移動してください。マウス左ボタンでクリックした場所に注記・記号が移動します。

#### 5.4.7 ユーザ注記・記号表示変更

ユーザ注記・記号のスタイルと色の変更が行えます。



[表示スタイル]を選ぶと書式、線号が選べ、サイズを入力できます。サイズは2,500分の1図面上のmm単位長です。[拡張スタイル]を選ぶと文字列の方向(回転角度)斜字体が設定できます。斜字体は[あり]を選んで、角度を入力して下さい。

[表示色]を選んで好みの色をマウスでクリックしてください。

#### 5.4.8 ユーザ注記・記号削除

入力したユーザ注記・記号を削除します。削除したいユーザ注記・記号のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。ユーザ注記・記号が削除され非表示となります。

#### 5.4.9 ユーザ注記・記号復活



削除されたユーザ注記・記号を復活させます。削除ユーザ注記・記号の復活は続けて実行できます。

##### 5.4.9.1 削除注記・記号表示

これを選ぶと削除されたユーザ注記・記号が水色で表示されます。

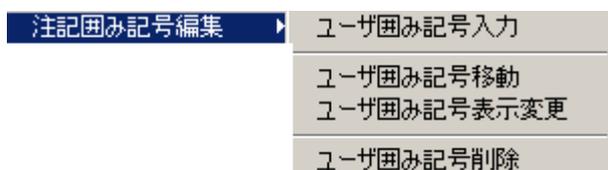
##### 5.4.9.2 削除注記・記号復活

復活させたい削除ユーザ注記・記号のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。復活します。

#### 5.5 注記囲み記号編集

ユーザ注記・記号を種々の形状で囲みます。また、大きさや色の変更もできます。**注記の囲み記号は注記・記号に対して設定されますが、注記が削除されても囲み記号は一緒に削除されません。**[ユーザ囲み記号削除]で削除して下さい。

サブメニューを示します。



##### 5.5.1 ユーザ囲み記号入力

[ユーザ囲み記号入力]を選び、画面下のメッセージに従い、囲みたいユーザ注記・記号をマウス左ボタンでクリックしてください。囲み記号の設定画面が表示されます。

[表示スタイル]を選ぶと囲み図形、線号が選べ、囲み図形の拡大倍率を入力できます。倍率は0.1から1.0までです。

[表示色]を選んで好みの色をマウスでクリックしてください。

##### 5.5.2 ユーザ囲み記号移動

入力したユーザ囲み記号を移動します。移動したい囲み記号の内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。

囲み記号を囲む長方形が表示されます。その長方形をドラッグして移動してください。マウス左ボタンでクリックした場所に囲み記号が移動します。

##### 5.5.3 ユーザ囲み記号表示変更

ユーザ囲み記号のスタイルや色の変更が行えます。

[表示スタイル]を選ぶと囲み図形、線号が選べ、囲み図形の拡大倍率を入力できます。倍率は0.1から1.0までです。

「白抜き」を選ぶと注記の周囲の白抜き表示を行います。(注記と囲み記号の間を白くできます。)

[表示色]を選んで好みの色をマウスでクリックしてください。

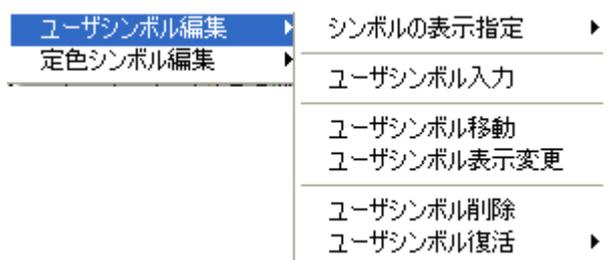
##### 5.5.4 ユーザ囲み記号削除

入力したユーザ囲み記号を削除します。削除したいユーザ囲み記号の内のどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。ユーザ囲み記号が削除され非表示となります。

#### 5.6 ユーザシンボル編集

画面上にユーザシンボルが入力できます。また、サイズ、色の変更や移動もできます。

シンボルはユーザが自由に追加、変更できます。これについては「東京デジタルミュージアムバージョン5カスタマイズ説明」を参照して下さい。サブメニューを示します。

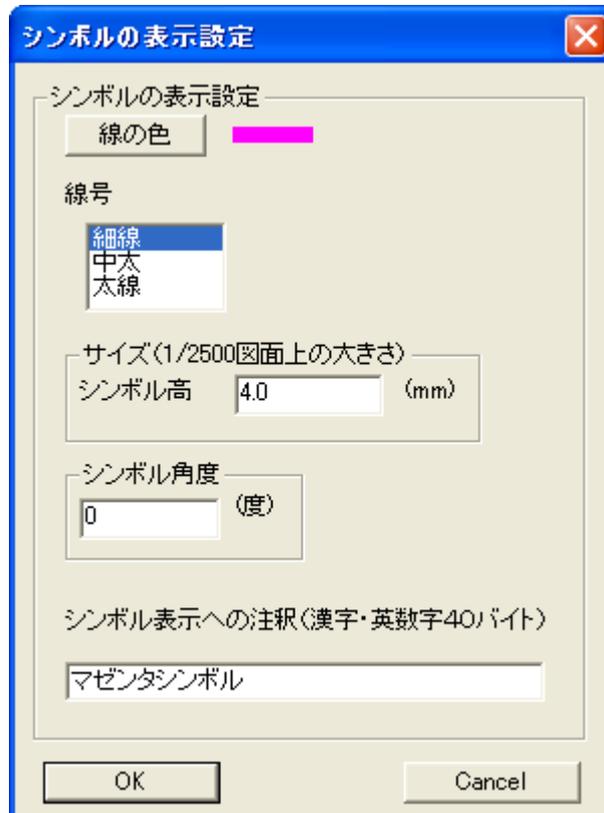


## 5.6.1 シンボルの表示設定



[シンボル表示の選択] は予め登録されているシンボル表示のリストから選択するものです。ここで選ばれたシンボル表示は次の指定があるまで、引き継がれます。

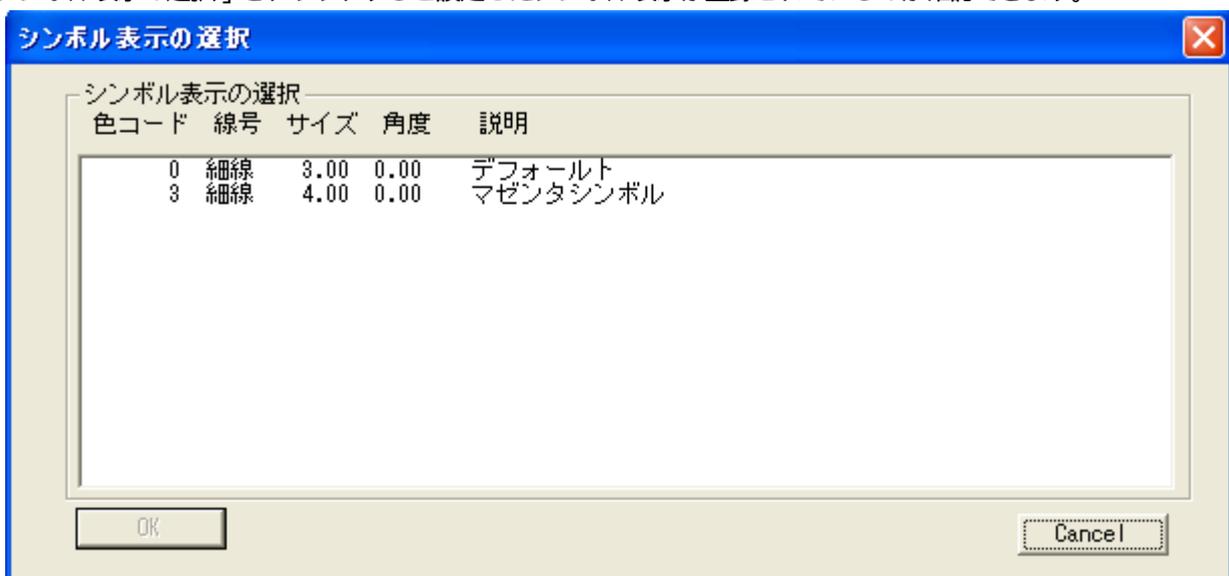
[シンボル表示の設定] で新しいシンボル表示を登録できます。



[線の色] ボタンを押すと色設定の画面が現れます。ここで一覧から設定したい色を選び [OK] を押下します。

シンボルの表示設定画面で [線の色] のボタンの横に色が表示されます。線号を選び、サイズ(シンボル高)、シンボル角度を入力します。シンボル表示への注釈を漢字・英数字40バイトで記入します。この注釈が [シンボル表示の選択] の一覧リストになります。

[シンボル表示の選択] をクリックすると設定したシンボル表示が登録されているのが確認できます。



## 5.6.2 ユーザシンボル入力

[ユーザシンボル入力] を選ぶと、画面左上にシンボル名称のボックスが表示されます。選んで、[OK] ボタンを押して

下さい。画面下メッセージに従い、シンボルの中心位置をマウス左ボタンでクリックしてください。

### 5.6.3 ユーザシンボル移動

移動させたいユーザシンボルのどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。シンボルを囲む長方形が表示されます。その長方形をドラッグして移動してください。マウス左ボタンでクリックした場所にシンボルが移動します。

### 5.6.4 ユーザシンボル表示変更

ユーザシンボルのスタイルと色の変更が行えます。



[表示スタイル] を選ぶと線号、角度が選べ、サイズを入力できます。サイズは2,500分の1図面上のmm単位長です。  
[表示色] を選んで好みの色をマウスでクリックしてください。

### 5.6.5 ユーザシンボル削除

入力したユーザシンボルを削除します。削除したいユーザシンボルのどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。ユーザシンボルが削除され非表示となります。

### 5.6.6 ユーザシンボル復活



削除されたユーザシンボルを復活させます。削除ユーザシンボルの復活は続けて実行できます。

#### 5.6.6.1 削除シンボル表示

これを選ぶと削除されたユーザシンボルが水色で表示されます。

#### 5.6.6.2 削除シンボル復活

復活させたい削除ユーザシンボルのどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。復活します。

## 5.7 定色シンボル編集

画面上に定色シンボルが入力できます。定色シンボルとは、信号機のように複数の定まった色を持ったシンボルや、予め固定した色を持ったシンボルです。このため、定色シンボルはサイズ変更や移動は可能ですが、色の変更はできません。

定色シンボルはユーザが自由に追加、変更できます。これについては「東京デジタルミュージアムバージョン4カスタマイズ説明」を参照して下さい。

サブメニューを示します。

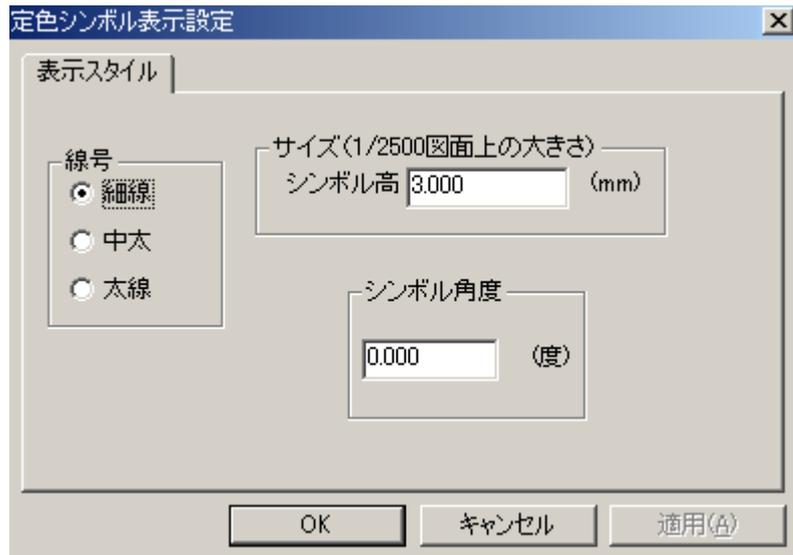


### 5.7.1 定色シンボル表示設定

[定色シンボル表示設定] を選ぶと、これから入力しようとする定色シンボルの大きさや角度等の表示属性を設定するこ

とができます。表示属性は次に [ 定色シンボル表示設定 ] が選ばれるまで引き継がれます。

表示設定画面は次頁のようです。この画面は [ 定色シンボル表示変更 ] を選んだ時の画面と同等です。



[ 表示スタイル ] で線号、角度が選べ、サイズを入力できます。サイズは2,500分の1図面上のmm単位長です。設定が終われば [ OK ] ボタンを押下して下さい。

#### 5.7.2 定色シンボル入力

[ 定色シンボル入力 ] を選ぶと、画面左上に定色シンボル名称のボックスが表示されます。選んで、[ OK ] ボタンを押して下さい。画面下メッセージに従い、定色シンボルの中心位置をマウス左ボタンでクリックしてください。

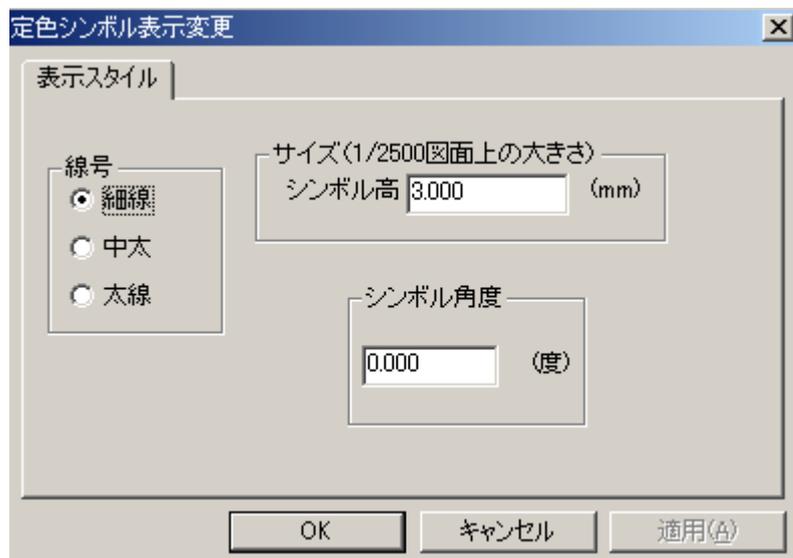
#### 5.7.3 定色シンボル移動

移動させたい定色シンボルのどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。定色シンボルを囲む長方形が表示されます。その長方形をドラッグして移動してください。マウス左ボタンでクリックした場所に定色シンボルが移動します。

#### 5.7.4 定色シンボル表示変更

定色シンボルのスタイルと色の変更が行えます。

以下のような表示変更画面が現れます。



[ 表示スタイル ] で線号、角度が選べ、サイズを入力できます。サイズは2,500分の1図面上のmm単位長です。

#### 5.7.5 定色シンボル削除

入力した定色シンボルを削除します。削除したい定色シンボルのどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。定色シンボルが削除され非表示となります。

#### 5.7.6 定色シンボル復活

定色シンボル復活 ▶ 削除定色シンボル表示  
削除定色シンボル復活

削除された定色シンボルを復活させます。削除定色シンボルの復活は続けて実行できます。

### 5.7.6.1 削除定色シンボル表示

これを選ぶと削除された定色シンボルが水色で表示されます。

### 5.7.6.2 削除定色シンボル復活

復活させたい削除定色シンボルのどこかをマウス左ボタンでクリックしてください。復活します。

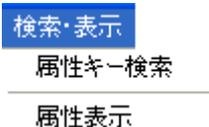
## 6. 検索・表示

ユーザカスタマイズのGIS機能です。構築されたGISあるいは高精度マッピングシステムを利用する機能、つまり属性キー検索や属性表示を行う機能より成ります。

[属性キー検索]はユーザが自由に設定したカテゴリーで、地図形状(マップ)とExcel等のデータベースソフトで準備した属性データベースを「キー」で連動させ、すばやくマップを検索する機能です。

[属性表示]は属性を持っているマップに対し属性内容を表示するものです。表示の際、「非定型」つまり項目の並び順に単純フィールド表示をおこなうものと、「定型」つまり、きちんとした表示フォームで表示するものがあり、「定型」表示を行うためには、予め表示フォームファイルを準備しなければなりません。表示フォームがなければ自動的に「非定型」の表示となります。

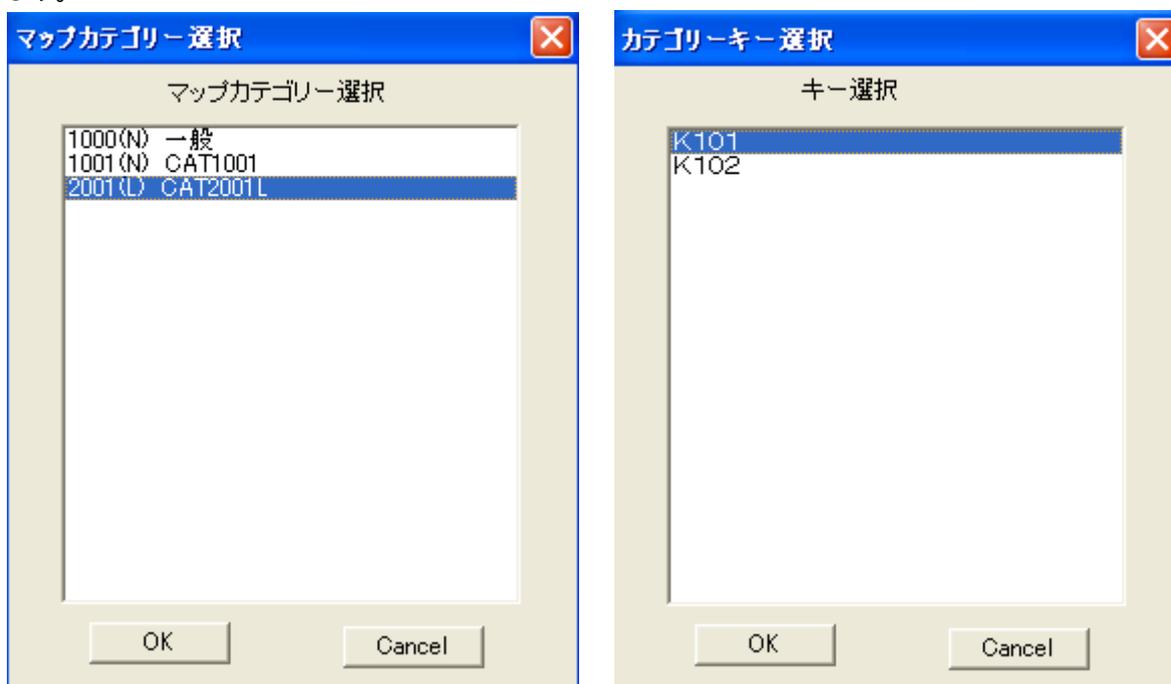
メニュー構造は以下のようです。



### 6.1 属性キー検索

カテゴリーマップ(地図形状を入力し、属性キー応付けが済んだもの)の検索を行う高度なGIS機能です。

[属性キー検索]を選択すると下図左のようなマップカテゴリー選択画面となります。検索すべきデータのカテゴリーを選択します。引き続いて下図右のように、設定されている全てのキーが表示されますのでその中から検索すべきキーを選びます。



キーが対応付けられたカテゴリーマップの地図形状を中心とした2,500分の1縮尺の地図が表示されます。この時、検索されたマップの中心は赤の+マークで表示されます。このマークは[検索表示消去]のアイコンをクリックすると消えます。

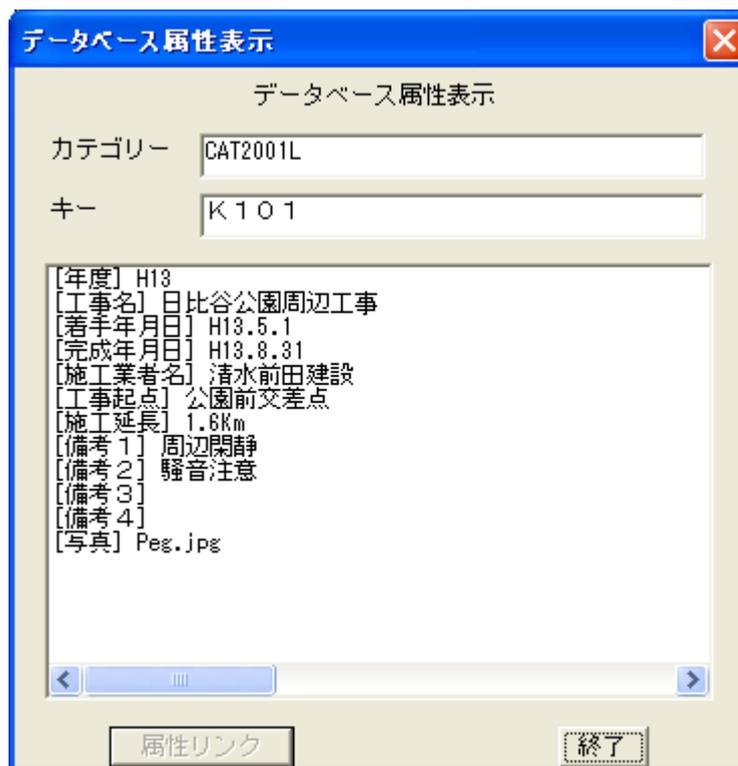
### 6.2 属性表示

カテゴリーマップ(地図形状を入力し、属性キー対応付けが済んだもの)が持っているデータベース属性の表示を行う高度なGIS機能です。

ここでは、属性キー対応付けを行って地図形状(マップ)にキーが設定されているとします。

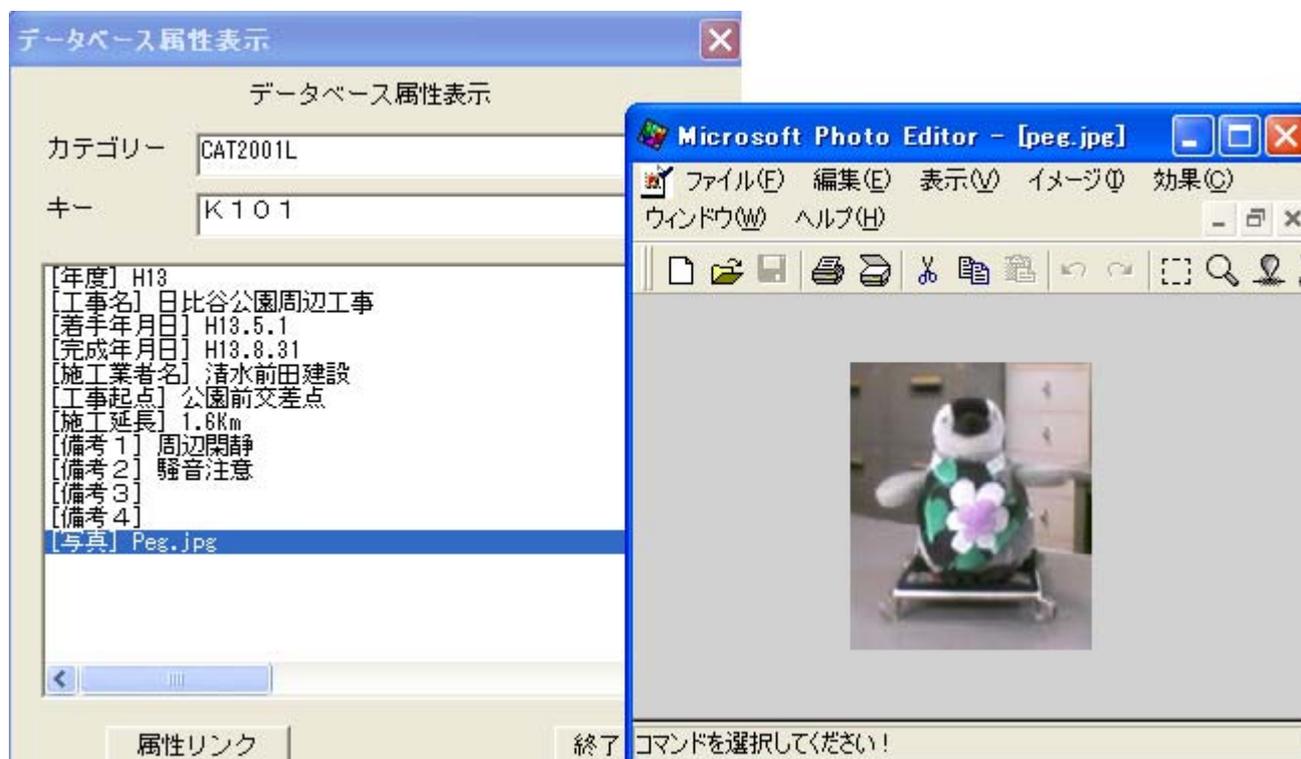
[属性表示]を選択し、下部のメッセージに従い、属性表示させたい地図形状(マップ)をマウスでクリックして下さい。

「非定型」の表示フォームの属性が表示されます。表示フォームを作成しなければ自動的に「非定型」の表示となります。



このように、「非定型」とは項目の並び順に1行に1つの項目（項目名称と内容）が表示されるものです。項目の内容が長くても水平方向にスクロール表示されます。

項目の一番下に画像データがありますが、このような「外部参照」となるデータ（画像でもCADデータでもExcelのデータでも構いません）は、画面の下方にある[属性リンク]ボタンで、別画面として参照できます。属性リンクされた状態の画面を以下に表示します。



属性リンクされるデータは syspath.def の ATTLINK パスで好きな場所に置くことができます。何も指定しなければImageフォルダーとなっています。

次に「定型」つまり、きちんとした表示テーブルを作成して表示してみましょう。

データベース属性表示	
整理番号	K101
年度	H13
工事名	日比谷公園周辺工事
着手年月日	H13.5.1
完成年月日	H13.8.31
施工業者名	清水前田建設
工事起点	公園前交差点
施工延長	1.6Km
備考	周辺閑静 騒音注意

属性リンク

終了

「定型」表示を行うためには、予め表示フォームファイルを準備しなければなりません。

表示フォームファイルは表の形式を定義するフォームデータと、その表に属性データベースのどの項目が記入されるべきかを記述したインフォデータの2つのファイルで構成されます。これらはU s r m a pフォルダーに置かれる必要があります。ファイルの名称はカテゴリーマップに対応し、例えばカテゴリーコード(1001から9999)が2001とした場合、フォームデータは form2001.txt、インフォデータは info2001.txt となります。

上記の「定型」表示に対応した表示フォームファイルをみてみましょう。

form2001.txt は下記のような形式です。これは表示すべき表の定義ですから分かりやすいと思います。x マークのところに実際のデータが記述されます。

```

整理番号  xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx  年度  xxxxxxxx

工事名    xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

着手年月日 xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

完成年月日 xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

施工業者名 xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

工事起点  xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

施工延長  xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

備考     xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
        xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
        xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx
        xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx

```

info2001.txt は下記のような形式です。一番上が項目の数、二番目からが実際の属性データベースが格納される位置を表わします。「2,16,40」はフォーム全体の2行目で、左から16バイトから始まる40バイトのフィールドを表現しています。今の場合、具体的には整理番号のx マークの部分を表わしています。

12
2, 16, 40
2, 66, 8
4, 16, 58
6, 16, 58
8, 16, 58
10, 16, 58
12, 16, 58
14, 16, 58
16, 16, 58
17, 16, 58
18, 16, 58
19, 16, 58

表示されている属性データベースは以下のようです。

;キー (全角), 年度, 工事名, 着手年月日, 完成年月日, 施工業者名, 工事起点, 施工延長, 備考 1, 備考 2, 備考 3, 備考 4, 写真 K 1 0 1, H13, 日比谷公園周辺工事, H13.5.1, H13.8.31, 清水前田建設, 公園前交差点, 1.6Km, 周辺閑静, 騒音注意, ,, , Peg.jpg K 1 0 2, H14, 霞ヶ関工事, H14.4.11, H14.8.30, 共立戸田建設, 霞ヶ関交差点, 2.4Km, ,, , PegL.jpg K 1 0 3, H14, 内幸町工事, H14.5.15, H14.9.10, 大林鴻池組, 内幸町一丁目, 0.8Km, 平日人通り多し, ,, , Peg.jpg
--

ここで例として説明した表示フォームファイル (form2001.txt と info2001.txt) と属性データベース usrDB2001.csv は Sampleフォルダーにあります。カスタマイズの際にご参照ください。

この例からもお分かりのように、カテゴリコード 2001 の属性データベースは usrDB2001.csv という名称になります。

## 7. ランクマップ

町丁目や字に対して、人口や各種統計データをランキングし、ランクマップを作成します。

作成されたランクマップは名前を付けて保存でき、自由に呼び出せます。ランクマップはDMの地形図データと重畳表示でき、場合によっては区界あるいは市町村町界のみとの表示もできます。この時、[町]のアイコンを利用すると、町丁目や字の太字表示および境界線の同時表示も可能です。名称の表示は漢字アウトラインにより行いますので、塗りつぶしや白抜きの表示もできます。ランクマップをカスタマイズする方法については、この説明書の最後に述べます。

ランクマップに用いる町丁目や字単位の属性データベースはエクセルを前提にしていますが、CSVファイルが読めるデータベースソフトであれば何でも構いません。

メニュー構造は以下のようになります。

ランクマップ
新規作成 開く
名前を付けて保存
保存ランクマップ削除
表示オンオフ
ランクデータベース編集

<ランクマップの表示の便利な機能> ランクマップを  アイコンを使用して丁目毎に表示する際、DM地形図を全て非表示にすると、区や市町村が境界のみで字、丁目に表示され特別なマップが作成できます。

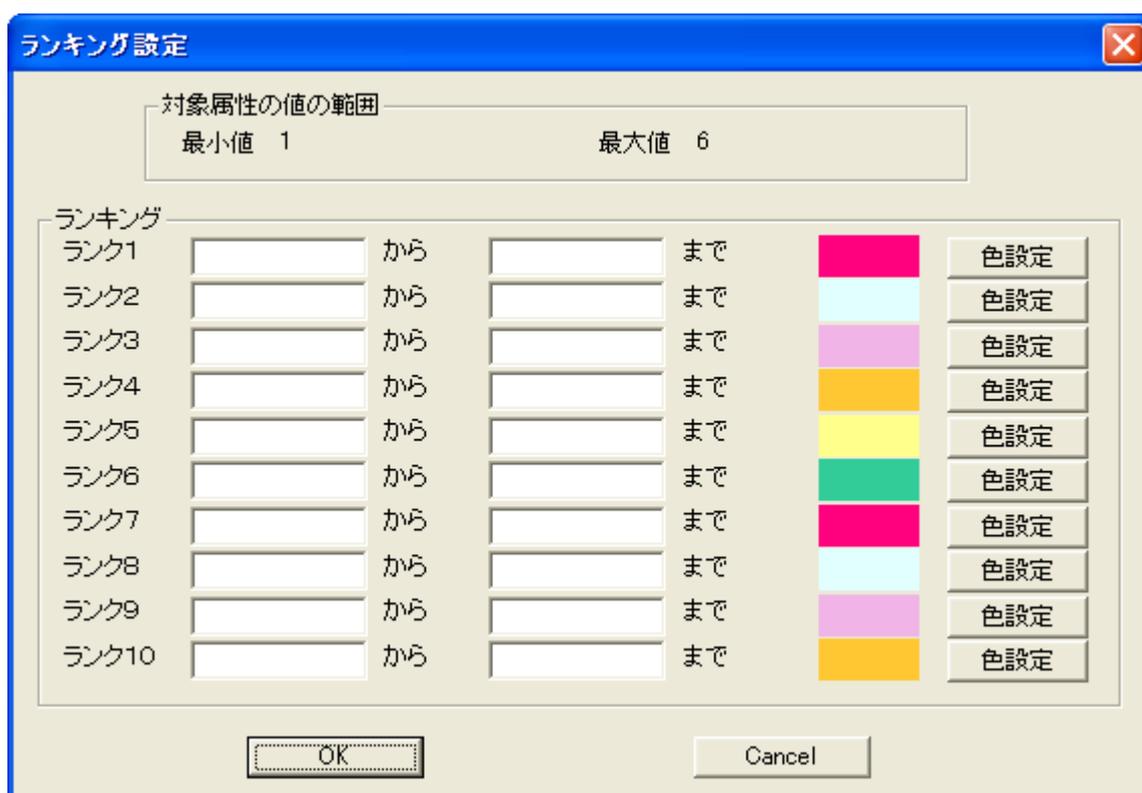
### 7.1 新規作成

[新規作成] を選ぶと次頁のようなランキングの設定画面が現れます。

属性データは製品出荷時には「テストデータ」しかありませんが、データベース編集で自由に追加、削除できます。



テストデータでランキングを行い、ランクマップを作成してみましょう。テストデータを対象属性として[ランキング]ボタンを押すと次図のような画面となります。最小値と最大値が表示されますので、ランクの範囲値設定は容易です。



最大10ランクまで設定できます。ランク毎に色設定ができます。表示されているのがデフォルトで、ランク1からランク6までの色がランク7以降繰り返されています。下図は[色設定]ボタンを押して色設定の画面が現れたところです。



ランクは属性値を範囲毎に区切ってクラス分けできます。例えば、テストデータは以下のようになっています。

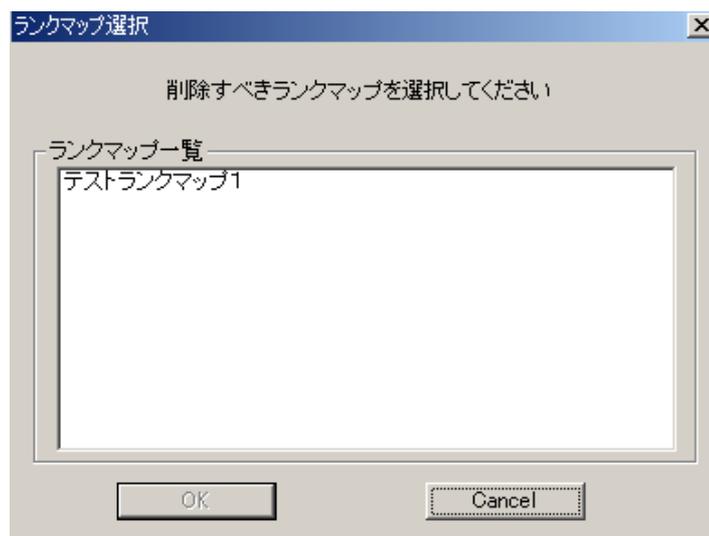
	A	B	C	D	E	F
1	町丁目コード	9系Y座標	9系X座標	町丁目名	テストデータ	
2	11300101	-13472.3	-3671.2	上原一丁目	5	
3	11300102	-13699.8	-37079.3	上原二丁目	5	
4	11300103	-14112.9	-37006.2	上原三丁目	5	
5	11300200	-11910.1	-38477.7	鶯谷町	5	
6	11300300	-12253.1	-37472.2	宇田川町	1	
7	11300401	-10809.3	-39143.9	恵比寿一丁目	3	
8	11300402	-10208	-39209.3	恵比寿二丁目	3	
9	11300403	-10391.5	-39563.8	恵比寿三丁目	3	
10	11300404	-10859.8	-39410	恵比寿四丁目	3	
11	11300501	-11506.9	-39085.3	恵比寿西一丁目	5	
12	11300502	-11493.2	-38828.3	恵比寿西二丁目	5	
13	11300601	-11169.6	-39389.7	恵比寿南一丁目	4	
14	11300602	-11270.6	-39524.9	恵比寿南二丁目	4	
15	11300603	-11573.5	-39324.3	恵比寿南三丁目	4	

上原一丁目のテストデータは5です。次図のようにランキングを行った場合、ランクは3となり、上原一丁目の町丁目ポリゴンはランク3の色で塗られます。恵比寿一丁目のテストデータは3です。これはランク2となり、恵比寿一丁目の町丁目ポリゴンはランク2の色で塗られます。



### 7.3 ランクマップの削除

ランクマップの削除は [ 開く ] と同様です。[ 保存ランクマップ削除 ] を選ぶと以下のランクマップ削除画面となります。



削除したいランクマップを指定して [ OK ] を押します。

### 7.4 ランクマップの表示 / 非表示

[ 表示オンオフ ] を選ぶとランクマップが表示から非表示へ、非表示から表示へと変わります。

### 7.5 データベース呼び出し

[ データベース編集 ] を選ぶと区や市町村の町丁目あるいは字の属性データベースが呼び出されます。

データベースはエクセルを前提にしていますが、CSVファイルが編集できるデータベースソフトであれば何でも構いません。エクセルで開いた場合のデータの一例を示します。

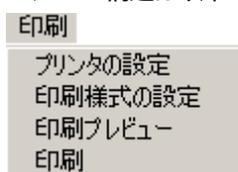
	A	B	C	D	E	F
1	町丁目コード	9系Y座標	9系X座標	町丁目名	テストデータ	
2	10100101	-7305.74	-33810.9	飯田橋一丁	3	
3	10100102	-7191.27	-33733	飯田橋二丁	3	
4	10100103	-7335.76	-33494.8	飯田橋三丁	3	
5	10100104	-7542.33	-33554.8	飯田橋四丁	3	
6	10100200	-7971.8	-35071.3	一番町	5	
7	10100301	-4741.99	-34482.8	岩本町一丁	4	
8	10100302	-4822.85	-34339.3	岩本町二丁	4	
9	10100303	-4835.89	-34104.6	岩本町三丁	4	
10	10100401	-5817.34	-34656	内神田一丁	2	

Eの列以降に自由に属性を設定できます。1行目に属性のタイトルを記入し、2行目以降が町丁目あるいは字の属性データです。E列のテストデータは削除しても結構です。A列からD列は削除あるいは変更してはいけません。

入力された属性データは直ちにダイナミックに反映されます。

## 8. 印刷

メニュー構造は以下のようです。



### 8.1 プリンタの設定

プリンタを選択し、印刷を行う用紙の大きさや向き（縦または横）を設定します。

### 8.2 印刷様式の設定

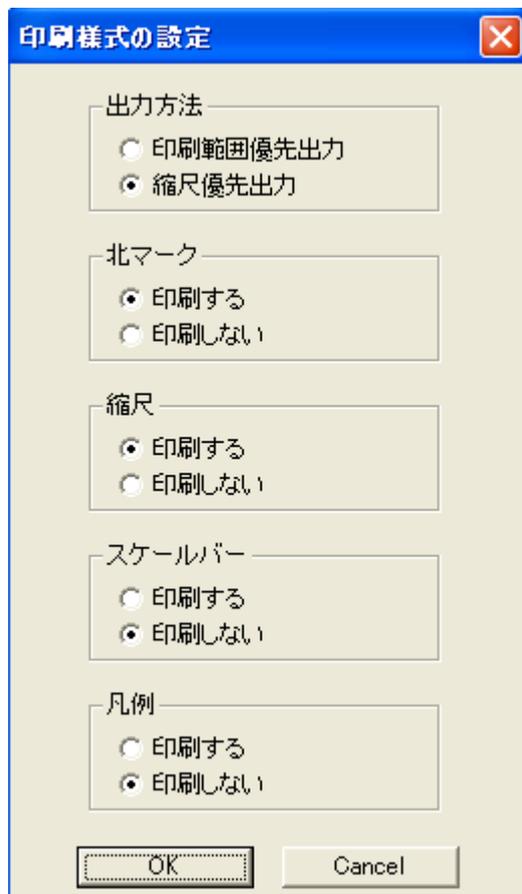
印刷様式（出力方法、北マーク、縮尺、スケールバー、凡例）の設定を行います。下図に設定画面を示します。ここで、出力方法について少し説明します。

印刷範囲優先出力：現在表示されている範囲を含むように縮尺が調整されて印刷されます。

縮尺優先出力：現在表示されている縮尺で範囲が調整されて印刷されます。

地図の中心は表示されている画面の中心です。

（印刷された地図の範囲と画面の地図の範囲が異なります。）



<注意> 印刷凡例は用紙のどこにでも配置できます。印刷凡例位置のアイコンをクリックすると下図のような画面が現れます。凡例の左下隅の位置を用紙上のミリメートルで指定して下さい。



### 8.3 印刷プレビュー

印刷した時のイメージが表示されます。

### 8.4 印刷実行

このメニューをマウスでクリックすると、印刷が行われます。

何も設定せずに印刷実行を行うと、縦印刷、縮尺優先出力、北マークおよび縮尺が表示されます。スケールバーや凡例は印刷されません。

## 9. 地図データ変換

表示されている画面を切り取って、クリップボードに貼り付けたり、EMF(拡張メタファイル)を作成したりできます。

また、ポストスクリプト(EPSファイル)や定型ポストスクリプト(XPSファイル)[これを基にアドオンツールではDXFファイルが作成できます]に変換でき、CADやデザインに利用できます。EPSファイルや、DXFファイルでは、地図が回転した状態の時、回転後の座標で作成でき、大変便利です。

メニュー構造は以下のようです。



### 9.1 変換範囲

サブメニューを示します。



#### (1) 全画面

現在表示されている画面全体を変換範囲とします。

#### (2) マウス矩形指定

変換範囲をマウス左ボタンで指定します。指定は左上隅と右下隅をマウスでクリックしてください。

#### (3) 座標指定

座標指定は実座標の(横座標、縦座標)を左下隅点として、横長さ、縦高さをメートルの単位で指定します。座標系が回転していても、図面の左下隅点は定まりますので、横長さ、縦高さで指定します。



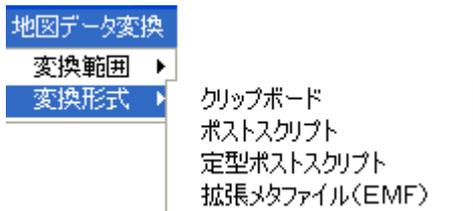
この時、変換範囲はスクリーンに表示されている範囲でなければなりません。広い範囲を変換しようとする時は、予め図面の縮小や母数の設定により、十分広い範囲を表示した上で変換して下さい。

システムのアイコンの機能では、座標表示は測量座標(9系の平面直角座標)で表示されますので、

(X, Y)は(縦座標, 横座標)

となっています。ここでの指定は、通常の数学座標(横座標, 縦座標)の順です。ご注意下さい。

### 9.2 変換形式



#### (1) クリップボード

表示されている画面を切り取ってクリップボードに貼り付けることができます。

ワードやペイント、PhotoShop 等のソフトで自由に画像が取り込めます。

操作はメニューバーの [ 地図データ変換 ] - [ 変換形式 ] から [ クリップボード ] を選択します。変換範囲については、何も指定しなければ画面に表示されている全範囲となります。

## ( 2 ) 拡張メタファイル ( E M F )

拡張メタファイルはビットマップ画像データと異なり、縮尺の正しい地図が出力される高精細のグラフィック画像です。200% ( 2倍 ) 300% ( 3倍 ) に拡大しても全く地図が崩れないばかりか、拡大すればする程、画面では見えにくかった部分が明確になります。EMF をエクセルやワードと共に利用すると、写真や図面と一体化した文書が自在に作成でき非常に有用です。

EMF はクリップボードの作成と同様に、まず変換範囲を選び、その後でファイル変換します。OUTPATH で指定したフォルダー ( デフォルトでは OutData フォルダー ) に Ami.emf が作成されます。

EMF をワードや Excel で使用する場合は、メニューバーから [ 挿入 ] - [ 図 ] - [ ファイルから ] の順に Ami.emf を貼り付けます。

拡張メタファイルを用いた文書の作成方法についてもう少し詳しく説明します。

### < 拡張メタファイルの使用方法 >

#### < 手順 1 > システムで EMF を作成します

システムの実行で、メニューバーから [ 地図データ変換 ] - [ 変換範囲 ] - [ マウス矩形指定 ] で出力したい地図の範囲を指定します。全画面または座標を指定して範囲を正確に指定することもできます。

次に [ 地図データ変換 ] - [ 変換形式 ] - [ 拡張メタファイル ( E M F ) ] を選択します。

これで、所定のフォルダーに EMF が作成されます。

( システムはここで終了させてもよいし、アイコン化しておいてもかまいません )

#### < 手順 2 > 作られた EMF をエクセルに取り込みます

エクセルを起動し、メニューバーから [ 挿入 ] - [ 図 ] - [ ファイルから ] と選択します。この手順はワードの場合も同じです。

図を挿入するダイアログがポップアップします。ここで、ファイルの場所として所定のフォルダー ( デフォルトでは OutData フォルダー ) を選ぶと、EMF の図が表示されますので、[ 挿入 ] をクリックします。

これで、エクセル (あるいはワード) の中にシステムで作成した拡張メタファイルが取り込まれます。

#### < 手順 3 > エクセルをデザインツールとして写真や図面を貼り付けます

写真や図面を所定の画像ビューア (例えば Acrobat やフォトエディタ) で開きます。

画像の所定の部分を切り取って [ 編集 ] - [ コピー ] します。画像ビューアはここで終了します。

EMF を取り込んだエクセルで、[ 編集 ] - [ 貼り付け ] を指示します。写真や図面が取り込まれますので、位置と大きさをマウスのドラッグで定めます。(この操作は何回でも実行できます)

次に、エクセルの適当なフィールドにタイトルや注記を書き込み、色やサイズを指定します。

他のソフト (ワードやイラストレータ等) で作ったテキスト、ビットマップ、グラフィック図形や EMF を [ 編集 ] により [ コピー ] [ 切り取り ] - [ 貼り付け ] することもできます。

#### < 手順 4 > 作成された文書を保存し印刷します

エクセルの手順で作成された文書を保存します。

また、印刷もエクセルの通常の手順で実行できます。

## ( 3 ) ポストスクリプト ( E P S ファイル変換 )

以下のダイアログ画面から EPS 変換のパラメータを入力し、EPS ファイルを作成します。

図面の縦または横の長さを mm 単位で指定するか、図面の縮尺を設定します。どれか 1 つを設定します。

実際的な使用法は縮尺パラメータを 1 : 1000 にするときれいな図が得られ有用です。ここでの縮尺は画面に表示されている縮尺とは無関係に設定できます。例えば、1 : 5000 で広い範囲を指定しておいて EPS には 1 : 1000 で変換するといったことができます。縮尺指定をしておいて他のパラメータがどういう長さになるかを表示することもできます。

EPS ファイルは OUTPATH で指定したフォルダー ( デフォルトでは OutData フォルダー ) に Ami.eps という名称で作成されます。

保存が必要な場合は他のフォルダーに複写するか、デザインツールで EPS ファイルを読み込んだ後、名称を付して保存してください。

変換範囲で、座標指定を用いると変換された図面の四隅の座標が明確になります。



#### (4) 定型ポストスクリプト (XPSファイル)

詳細な線画のポストスクリプト (EPSファイル) を作成します。デザインツールでEPSファイルの代用として入力することもできますが、実用的にはアドオンツールを介してDXF変換するのに有用です。

特にパラメータはありません。

XPSファイルはOUTPATHで指定したフォルダー (デフォルトではOutDataフォルダー) にAmi.xpsという名称で作成されます。

このファイルは一時的なワークファイルで、実際の使用にあたってはアドオンツールで作成されるDXFファイルをCADで読み込んだ後、名称を付して保存してください。

変換範囲で、座標指定を用いると変換された図面の四隅の座標が明確になります。

#### 9.3 EMF自由出力

表示されている画面とは無関係に、任意の範囲の地図を任意の縮尺のEMF (拡張メタファイル) で出力できる機能です。

EMF変換指定画面が現れますので、変換すべき範囲の左下隅および横長さ、縦高さを指定し、さらに作成すべきEMFの縮尺母数を入力します。



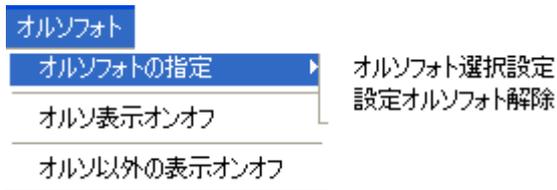
OUTPATHで指定したフォルダー (デフォルトではOutDataフォルダー) にAmiExp.emfが作成されます。

<注意> EMF自由出力では、変換範囲が広い場合計算量が多くなり待ち時間がかかります。計算終了までお待ち下さい。

## 10. オルソフォト

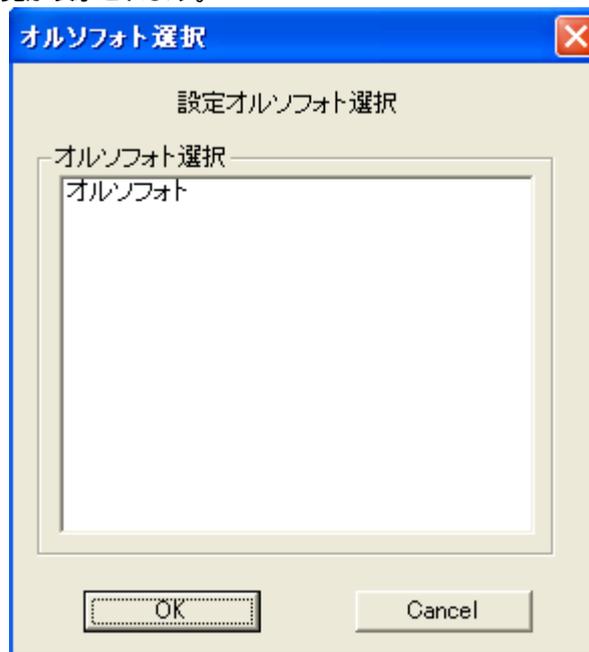
DM地形図やユーザマップの上にオルソフォト(正射変換画像)を重ね合せ表示するものです。オルソのみを表示したり、オルソの重ね合せをオンオフしたりすることができます。

メニュー構造を示します。



### 10.1 オルソフォトの指定

メニューバーの[オルソフォト] - [オルソフォトの指定] - [オルソフォト選択設定]を選択すると、以下のように設定されているオルソフォトの名称一覧が表示されます。



重ね合せたいオルソフォトを選び [ OK ] を押下します。指定されたオルソフォトが重ね合わされて表示されます。以下に重ね合せの表示例を示します。

<注意> ここでのオルソフォトは「オルソフォト(正射変換画像)の設定方法」の手順で設定されていると仮定しています。



以下に、同一地域のオルソフォトのみの表示、オルソフォト以外の表示も併せて示します。



また、メニューバーの[オルソフォト] - [オルソフォトの指定] - [設定オルソフォト解除]を選択すると、設定されたオルソフォトを解除します。あらためて[オルソフォト選択設定]を行わないとオルソフォトは表示されず、オンオフしても表示はされません。

### 10.2 オルソ表示オンオフ

メニューバーの[オルソフォト] - [オルソ表示オンオフ]を選ぶと、オルソフォトの重ね合せがオンオフされます。

### 10.3 オルソ以外の表示オンオフ

メニューバーの[オルソフォト] - [オルソ以外の表示オンオフ]を選ぶと、DM地形図やユーザマップ等、オルソフォト以外の地図の表示がオンオフされます。

## 11. ヘルプ

東京デジタルミュージアムバージョン5のバージョンやオンライン操作説明です。

[東京ミュージアムのバージョン]では東京デジタルミュージアムのバージョン情報が表示されます。

[東京ミュージアムの操作説明]では操作説明書(本書)がオンライン文書として参照できます。

## 12. アイコンの機能

ツールバーのアイコンで、種々の図面操作や計測、あるいは図形操作を行うことができます。これらの42の機能はアイコンをマウスの左ボタンでクリックすると実行されます。

ツールバーの機能だけを知りたい場合は、アイコン上にマウスを置けば機能の概要がツールヒントとして表示されます。また、下のメッセージ欄に説明が表示されます。

### 12.1 基本図面操作

拡大、縮小、任意拡大、移動といった基本の図面操作です。

拡大、縮小はある大きさで打ち切られますが、縮小は「制限なし」にもできます。

#### (1) 拡大・縮小と任意拡大



ツールバーの3つのアイコンで行うことができます。

左のアイコンは拡大（通常2倍）、中のアイコンは縮小（通常1/2）です。これらの拡大率、縮小率は、[拡大率、縮小率、移動率の変更]の機能で自由に変更できます。

右のアイコンは任意拡大です。これは、画面上で拡大したい地図の範囲の、左上と右下をマウスのラバーバンドで指定します。指定された範囲に合わせて地図が拡大されます。任意拡大を途中で中止する場合はマウスの右ボタンをクリックして下さい。

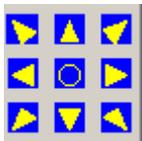
#### 拡大・縮小の制限

拡大・縮小はある大きさで打ち切られますが、縮小は「制限なし」にもできます。これを実現するのがオプションファイル Defscl.txt です。このファイルはu t i lフォルダーにあります。

内容は以下のようになっていますので、必要に応じて修正してお使い下さい。

```
100      /*Min.Bosuu*/
0        /*Max.Bosuu:if 0 then without limit*/
```

#### (2) 八方向移動と中心移動



ツールバーの9つのアイコンで行うことができます。

左上、上、右上、左、右、左下、下、右下の8つの方向に地図が移動します。

移動割合は、デフォルトでは現在表示されている地図の25%ですが、[拡大率、縮小率、移動率の変更]の機能で自由に変更できます。

真中のアイコンをクリックすると

「移動中心をクリックしてください(右ボタンでキャンセル)」

のメッセージが表示されます。この場合はその地図の中心としたい位置を、マウスでクリックします。

その位置が中心の地図が表示されます。

### 12.2 計測機能

距離計測、面積計測、角度計測および地点の座標表示を行うことができます。



#### (1) 距離計測

右の距離計測のアイコンをクリックしてください。

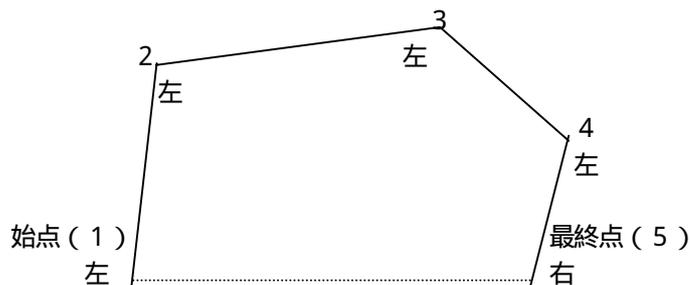
メッセージに従い、左ボタンで計測を行う点を次々とクリックすると、それに応じて移動距離が表示されます。マウスの右ボタンで終了です。

画面を動かしながら距離計測を行う場合は、CTRLまたはShiftキーを押しながら、左ボタンをクリックして下さい。マウスの位置が画面中心になるように移動します。

#### (2) 面積計測

中の面積計測のアイコンをクリックしてください。

メッセージに従い、左ボタンで計測を行う形状の点を次々とクリックしてください。最終点は右ボタンです。最終点から始点へは自動的に結線されます。例えば 5 角形の面積では 5 点をクリックしてください。



面積が上のステータスバーに表示されます。

2 点以下の場合は、何も計測されず表示されません。

画面を動かしながら面積計測を行う場合は、CTRL または Shift キーを押しながら、左ボタンをクリックして下さい。マウスの位置が画面中心になるように移動します。

### (3) 角度計測

左の角度計測のアイコンをクリックしてください。

メッセージに従い、画面上から角度計測を行います。

まず、角度計測の基点をマウス左ボタンでクリックします。次に、方向の起点をマウス左ボタンでクリックします。最後に、方向の終点をマウス左ボタンでクリックしますが、この時、方向起点、方向終点とも基点が固定されたラバーバンドとなりますので、角度の指定が容易です。

角度計測の結果が上のステータスバーに表示されます。

この時、途中で右ボタンをクリックすると、角度計測のキャンセルとなります。

### (4) 座標表示

下の座標表示のアイコン [XY] をクリックしてください。

メッセージに従い、画面上から地図の任意の位置をクリックすると、その地点の座標が得られます。

次々と左ボタンをクリックすれば、それぞれの地点の国土座標 (東京都の場合は 9 系座標となります) が、上のステータスバーに表示されます。国土座標は (北方向縦座標, 東方向横座標) の順です。

右ボタンをクリックすると、座標表示の終了となります。

## 12.3 さまざまな図面操作

地図の回転や回転リセット、全域表示や指定された縮尺での地図表示等、種々の図面操作を行うものです。

### (1) 拡大率、縮小率、移動率の変更

[ % ] のアイコンをクリックすると、地図の拡大率、縮小率、移動率の設定画面が現れます。

基本図面操作で述べた拡大、縮小および八方向移動の割合を、自由に設定できます。

拡大率、縮小率、移動率の最小値、最大値は次表のようです。

設定項目	既定値	最小値	最大値
拡大率	200% (2 倍)	100% (等倍)	2000% (20 倍)
縮小率	50% (1/2)	5% (1/20)	100% (等倍)
移動率	25% (1/4)	1% (1/100)	100% (FULL)

### (2) 地図の回転とリセット



上下 2 つのアイコンは地図の回転、回転リセットです。

地図の回転は、角度計測と同様の方法でメッセージに従って行ってください。まず回転中心をクリックします。次に回転元の方角を、そして最後に回転先の方角をクリックします。この時、起点、終点とも基点が固定されたラバーバンドとなりますので指定が容易です。

この時、途中で右ボタンをクリックすると、回転の指示はキャンセルとなります。

回転が指示されると、回転した地図が表示されます。

回転した地図上でも、拡大、縮小、八方向移動といった図面操作や、距離計測、面積計測、角度計測等が自由に行えます。

回転された地図は回転リセットが指示されるまで、回転された状態を引き継ぎます。

(3) 全域表示 

[ G ] のアイコンは全域表示です。全域表示では、起動画面と同じ表示となります。

(4) 縮尺母数設定 

[ 母 ] のアイコンは縮尺母数を設定して地図を表示するものです。指定した縮尺の地図が表示されます。

(5) 再描画 

[ R ] のアイコンは再描画を行うものです。

距離計測、面積計測、角度計測または印刷等で画面が見えにくくなった場合、再描画を行うと地図が鮮明になります。

## 12.4 特殊な操作

(1) 強調表示 

[ V ] のアイコンは特定レイヤ項目群を強調表示するものです。レイヤ指定表示と同様にして、強調したいレイヤ項目を指定します。強調表示はオン/オフとなります。

(2) 建物表示 

[ 建 ] のアイコンは建物の表示をオン/オフするものです。

(3) 図郭線の表示 

図郭線の表示をオンオフします。図郭の名称も表示されます。

(4) 中心座標表示 

[ 中+XY ] のアイコンを押すと、表示されている地図の中心座標が表示されます。この機能と [ 測地座標検索 ] を組み合わせると、前に表示されていた地図と同じ場所を表示・印刷できます。

(5) 辺の真北角度と二点の真北角度 

[ N ] のアイコンはDMの線・面データの指定された辺の、真北からの角度を計測・表示するものです。該当辺はピンクに着色されます。真北からの角度は辺の向きに対して0度から180度の間で示されます。

[ N2 ] のアイコンはマウスで指定した2点の、真北からの角度を計測・表示するものです。

(6) スクロールとズーム 

[ Sc ] アイコンでスクロールの実行。マウス左ボタンで開始、左または右ボタンを押して終了です。

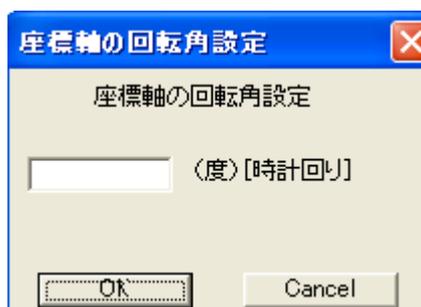
[ Zm ] アイコンでズームの実行。マウス左ボタンで開始、左または右ボタンを押して終了です。

(7) 全域移行表示 

[ Z ] のアイコンは全域移行表示を実行時に縮尺指定で変更できるようにしたものです。

(8) 地図の回転角度指定 

回転角度を指定して地図を回転させます。角度は時計回りで指定します。



回転した地図上でも、拡大、縮小、八方向移動といった図面操作や、距離計測、面積計測、角度計測等が自由に行えます。回転された地図は回転リセットが指示されるまで、回転された状態を引き継ぎます。

( 9 ) カテゴリー種別 

カテゴリー種別のアイコンをクリックすると、現時点で入力・編集対象になっているカテゴリーの [コードと名称] が、上のステータスバーに表示されます。

( 10 ) 属性キーの表示オン / オフ 

属性キーの表示オン / オフのアイコンをクリックすると、属性データベースと対応付けられたマップの属性キーが表示されます。もう一度クリックするとオフになります。

( 11 ) DM線範囲表示 

DM線範囲表示のアイコンをクリックすると、指示したDM線(建物も含みます)の範囲がマゼンタの矢印で示されます。連続表示できます。マウス右ボタンで表示の終了となります。

この機能は [DM線複写] あるいは [ユーザ線結合で面作成] で有用となります。

( 12 ) グリッド設定 

グリッド設定のアイコンをクリックすると、地図上にグリッドを表示できるようになります。

グリッドは基準位置の横座標、縦座標とグリッド間隔(横、縦別々に指定できます)で指定します。あわせてグリッドの線色と線号も指定できます。



## &lt;注意&gt;

ここでの設定はグリッドの形態を指定するものです。実際にグリッドを表示するには、「グリッド表示オン / オフ」のアイコンによります。

( 13 ) グリッド表示オン / オフ 

グリッド表示オン / オフのアイコンをクリックすると、地図上のグリッドを表示したり非表示にしたりできます。

## グリッドと地図データ変換

グリッドが表示されている状態で地図データ変換 (EPSやEMF、XPS変換) を行った場合、グリッドも一緒に変換でき、とても便利になっています。

( 14 ) 印刷凡例位置 

[凡]のアイコンで印刷凡例位置を設定します。位置は出力図面の左下隅からのX方向、Y方向のmm単位で指定します。

凡例の出力は[印刷] - [印刷様式の指定]で凡例の項の「印刷する」を選択するか否かによります。デフォルトは「印刷しない」になっています。

凡例を使用する場合は、凡例定義データサンプル (hanrei.dat) を参考にして、凡例定義データ仕様 (hanrei.def) に従って凡例データを作成してください。この時のファイル名は何でも構いません。作成された凡例データは、hanrei.dat とい

う名称に変えて、現在プログラムを実行中のフォルダーに複写してください。

凡例の作成は、「自由にどんな凡例でも作成可能な」反面、慣れないと少し難しい面もあります。まず、凡例定義データサンプル (hanrei.dat) を使って印刷し、要領を会得してから行って下さい。

凡例については[カスタマイズ説明書](#)を参照して下さい。

#### (15) 検索表示消去

検索表示消去のアイコンは地図が検索された場合に表示される赤の+マークを消去するためのものです。

#### (16) 計測表示消去

計測表示消去のアイコンは、距離計測、面積計測、角度計測の計測表示や辺の真北角度、2点の真北角度ならびにDM線範囲表示のピンクの線を消去するものです。計測表示ならびにDM線範囲表示は、このアイコンが押されるまで表示が続行されます。

<注意>

計測表示と真北角度、DM線範囲表示は「どれか1つ」が保持されます。例えば距離計測の後で面積計測を実行すれば、表示されるのは面積計測の線です。

#### (17) 建物高さオン/オフ

建物高さオン/オフのアイコンをクリックすると、DM建物およびユーザ建物の全てについて、設定されている高さが表示されます。所要の建物高さを設定している時、どこまで正しく設定されたかが一目瞭然となります。もう一度クリックするとオフになります。

#### (18) 字・町丁目の境界線と名称表示



[町]のアイコンは字・町丁目の境界線と名称表示をオン/オフするものです。市区町村の字・町丁目境界線の全域図やランクマップの表示に便利な機能です。名称は漢字アウトラインストロークで描かれますので、塗りつぶしや白抜きが表示が可能になります。

### 15. システムの終了

メニューバーの[終了]をクリックすると、東京デジタルミュージアムバージョン5が終了します。

## 附録: 便利でかんたんなカスタマイズ

便利でかんたんなカスタマイズについて説明します。

システムに絡んだカスタマイズが必要な場合は「[東京デジタルミュージアムバージョン5カスタマイズ説明](#)」を参照して下さい。

### 附1. EMFやEPS、DXFファイルをデスクトップに作るには

#### EMFやEPS、DXFファイルの場所

出力されるEMF (拡張メタファイル) やEPSファイル、更にはXPSファイルを基にアドオンツールで作成されるDXFファイルは、デフォルトでは OutData サブフォルダー (正しくはOUTPATHで指定されたフォルダー) に作成されます。これらのファイル名称を変更することはできませんが、作成される場所 (フォルダー) を変更することは可能です。

たとえば、いつもデスクトップに作成できれば、PCに詳しくない人でも簡単にファイル出力ができ、他のソフトでの使用が容易となるでしょう。

出力ファイルの場所 (フォルダー) を変えるには

東京デジタルミュージアムバージョン 5 の実行フォルダーに、パスを指定するテキストファイル (Syspath.def) があります。これを、「メモ帳」(NotePad) 等のテキストエディターで OUTPATH を変更します。

デフォルトは OUTPATH = OutData となっています。

これを D ドライブの ABC フォルダーであれば OUTPATH = D:¥ABC

デスクトップであれば

OUTPATH = C:¥Windows¥デスクトップ (Windows98 や Windows Me の場合)

OUTPATH = "C:¥Documents and Settings¥All Users¥デスクトップ" (Windows X p の場合)

のようにして下さい。Windows X p の場合、空白を含みますので必ずダブルクォーテーションで囲んで下さい。

## 附 2 . 面表示や線表示の設定

ユーザマップで面表示や線表示をダイナミックに設定できますが、削除はプログラムの中ではできません。また、多数の設定は手作業の方が手取り早く行えます。

面表示の設定ファイルは Surfhan.dat、線表示の設定ファイルは Linehan.dat という名称のテキストファイルで、いずれも U s r m a p フォルダー内にあります。

### 登録の削除

登録された表示を削除するには、このテキストファイルを「メモ帳」(NotePad) 等のテキストエディターで開き、当該ラインを削除すれば OK です。

### 登録の追加

多数の表示を登録するには、「メモ帳」(NotePad) 等のテキストエディターで開き、定義行を追加します。

#### < 面表示の追加 >

面表示の設定ファイルは次のようになっています。初期設定の後、操作説明でマゼンタ格子面を追加した状態です。

/*色コード	輪郭線号	スタイル	コメント
4	1	23	"デフォルト"
3	1	31	マゼンタ格子面

それぞれの行はフリーフォーマットで、最初が色コード、次が輪郭線号、スタイル、コメントの順です。

色コードは D e f フォルダーの Color23.tab ファイルを参照して下さい。

スタイルは以下のようになっています。

輪郭のみ=0、塗りつぶし=1

垂直ハッチ=21、水平ハッチ=22、右上りハッチ=23、右下りハッチ=24

格子=31、斜め格子=32

#### < 線表示の追加 >

線表示の設定ファイルは次のようになっています。初期設定の後、操作説明で路線価表示線を追加した状態です。

/*色コード	線号	線種	スタイル	コメント
1	1	0	1	"デフォルト"
2	2	0	2	路線価表示線

それぞれの行はフリーフォーマットで、最初が色コード、次が線号、線種、スタイル、コメントの順です。

色コードは D e f フォルダーの Color23.tab ファイルを参照して下さい。

線種は以下のようです。

実線=0、点線=9、一点鎖線=1、二点鎖線=2

スタイルは以下のようになっています。

矢線なし=0、片方向=1、双方向=2

#### < 注記表示の追加 >

注記表示の設定ファイルは次のようになっています。初期設定の後、操作説明で縦書き注記を追加した状態です。

/*色コード	書式	線号	文字高	文字幅	文字間隔	文字方向	斜字体	基底角	夾角	コメント
0	0	1	3.0	2.1	0.0	0.0	0	0.0	60.0	"デフォルト"
1	1	1	3.00	2.10	0.00	0.00	0	0.00	0.00	"縦書き注記"

それぞれの行はフリーフォーマットで、最初が色コード、次が書式、線号、文字高、文字幅、文字間隔、文字列方向、斜字体とその設定角度、コメントの順です。

色コードは D e f フォルダーの Color23.tab ファイルを参照して下さい。

書式は以下のようです。

横書き=0、縦書き=9

斜字体の指定は以下のようになっています。

なし=0、あり=1

## &lt;シンボル表示の追加&gt;

シンボル表示の設定ファイルは次のようになっています。初期設定の後、操作説明でマゼンタシンボルを追加した状態です。

/*色コード	線号	サイズ	角度	コメント
0	1	3.0	0.0	"デフォルト"
3	1	4.00	0.00	"マゼンタシンボル"

それぞれの行はフリーフォーマットで、最初が色コード、次が線号、サイズ、角度、コメントの順です。色コードはD e f フォルダのColor23.tab ファイルを参照して下さい。

## 附3 . マップカテゴリーのカスタマイズ

カテゴリーは[ユーザマップカテゴリー]の[カテゴリー設定]で最大2000まで、いくつでも設定できますが、**削除はプログラムの中ではできません**。これは登録されたカテゴリーを削除しても、カテゴリーマップの地形図が残っていて整合性が取れなくなるからです。

登録されたカテゴリーを削除するには、以下のようにして下さい。

**手順1** . U s r m a p フォルダにある category.def というテキストファイルを「メモ帳」(NotePad)等のテキストエディターで開き、不要になったカテゴリー定義の当該ラインを削除します。

**手順2** . U s r m a p フォルダにある不要になった当該カテゴリーのマップの地形図を削除します。

例えばカテゴリーコードが2000だとします。このカテゴリーコードに対応したユーザマップのデータは、U s r m a p フォルダの下にU C 2 0 0 0 サブフォルダに格納されています。このサブフォルダ全体を削除して下さい。

## 附4 . ユーザマップの制限を変更するには

ユーザマップにはシステムの構成上から幾つかの容量制限があります。これらの制限はユーザマップ設定ファイルにより自由に変更できます。ユーザマップ設定ファイル Umaplim.txt はU s r m a p フォルダにありますので「メモ帳」(NotePad)等のテキストエディターで修正できます。

10000	/*MaxUID:Max. IDs per user-layer*/	1つのレイヤの最大図形数(10000)
1000	/*MaxData:Max. vertexes per figure*/	1図形の最大頂点数(1000点)
5000	/*MaxDBBUF:Max. DB buffer length*/	データベースの1行のバイト数(5000)
100	/*MaxCSVDS:Max. CSV item-length*/	データベースの1項目のバイト数(100)
1000	/*Horizontal-Scroll-Extent in(pixel)*/	水平スクロールのピクセル数

## 附5 . ランクマップの&lt;町&gt;のカスタマイズ

ランクマップや字・町丁目境界線の全域図の表示では、[町]のアイコンが便利です。この時の表示もちょっとしたカスタマイズで驚くほど変化させられます。実行フォルダの下にu t i l サブフォルダに chomap.dat というテキストファイルがあり、以下のようになっています。

```
30.0 /* 町丁名の高さの実長:30m=12mm(1:2500)
20000.0 /* 小縮尺のスケーリング基準縮尺母数
21 /* 町界・町丁名の色コード
1 /* 町界の線号
5000.0 /* アウトライン(べた)の縮尺母数
2000.0 /* アウトライン(白抜き)の縮尺母数
8000.0 /* 漢字ストローク太線の縮尺母数
```

1行目の数値は名称のサイズを決めるものです。3行目は町界・町丁名の色コード、4行目は町界の線号です。

5から7行目はアウトラインストロークまたは漢字ストロークの設定で、縮尺母数が5000より小さくなるとアウトラインストロークになります。更に拡大して母数が2000以下だと白抜きになります。5000より小縮尺だとアウトラインがつぶれて見えないため漢字ストロークになりますが、母数が5000より大で8000以下の時は太字になります。

2行目の基準縮尺というのは、広域表示ではある大きさを保持し続けるために、基準の縮尺を設定するということです。この数値が20000というのは、これより小縮尺になっても1:20000での大きさを保持し続けるということです。

## 附6 . 表示の色や表示のスケールを変更するには

### 最大縮尺と最小縮尺

#### 拡大・縮小の制限

拡大・縮小はある大きさで打ち切られますが、縮小は「制限なし」にもできます。これを実現するのがオプションファイル Defscl.txt です。このファイルは u t i l フォルダにあります。

内容は以下のようになっていますので、必要に応じて修正してお使い下さい。

```
100 /*Min.Bosuu*/
0 /*Max.Bosuu:if 0 then without limit*/
```

### 検索マークの表示変更

地図検索やしおりの検索、ユーザマップの検索では、検索された中心に + マークが表示されますが、この + マークの色、線号、サイズは検索マークファイル Rmap.txt で設定されています。これを「メモ帳」(NotePad)等のテキストエディターで修正できます。このファイルは u t i l フォルダにあります。

<Rmap.txt >

```
2 2 16 /*col=2, lw=2, pix.size=16
```

左から色コード、線号、サイズのピクセル数

### ユーザレイヤの設定

これは表示したいレイヤを予め設定しておくものです。ユーザ設定レイヤは99組設定できます。

デフォルトでは「等高線レイヤ」1つだけが設定されています。

(ulay01.txt)

```
等高線レイヤ
7101
7102
7103
7105
7106
7107
8173
```

ユーザ設定レイヤの形式は、1行目が「レイヤ名称」で2行目以降に表示したいレイヤコードを並べたものです。

こうして作成されたテキストデータを ulay01.txt から ulay99.txt までの99組設定できます。

ユーザ設定レイヤ定義ファイルは u t i l フォルダに置く必要があります。

### D X F ファイルの注記変換のオプション

X P S ファイルを基にアドオンツールで作成される D X F ファイルの注記変換では特殊なオプションがあります。

#### 注記変換の注意

座標軸が回転している時、注記を回転に連動させたい時といつも一定(横向き)にしたい時があります。これを実現するのがオプションファイル dxfTXrot.txt です。このファイルは u t i l フォルダにあります。

内容は以下のようになっていますので、必要に応じて修正してお使い下さい。

```
0 /*0=回転連動、1=常に一定(横向き等)*/
/*座標軸回転時注記変換オプション*/
```

(以上)